

甲府市内遺跡III

— 平成 7・8 年度試掘調査報告書 —

2006

甲府市教育委員会

序

平成18年3月1日、甲府市は旧中道町・旧上九一色村北部と合併し新たに出発しました。新甲府市は、長野との県境に位置する標高2500m級の秩父連山を北辺とし、南は標高2000mに近い御坂山塊までの南北43キロ、東西最大幅約10キロと、甲府盆地を南北に縱断する細長い市域となりました。この合併により旧甲府市域に253箇所、旧中道町に103箇所、旧上九一色村北部の12箇所、合計368箇所が埋蔵文化財包蔵地となり、県内屈指の「遺跡の宝庫」が誕生しました。中には弥生時代後期から古墳時代前期に位置する120基を超える方形周溝墓群の「上の平遺跡」、古墳時代4世紀代に築造された古墳として東日本最大級の規模を誇る「銚子塚古墳」・「丸山塚古墳」をはじめ、中世武田氏三代の居館である「武田氏館跡」など、全国的にも著名な遺跡が含まれております。

本書は、平成7・8年に旧甲府市域において行われました試掘調査の報告であります。加牟那塚古墳が所在する千塚周辺から積石塚古墳が集中する和戸周辺までの盆地北辺部の遺跡を中心とする遺跡の調査成果が多く掲載されております。

合併により市域が拡大したため、今後試掘調査件数も増加するものと考えられます。是非とも未来を担う子供たち、さらに子々孫々まで、我々の先人が残した歴史を守り伝えるためにも、市民の皆様方一人一人の埋蔵文化財に対するご理解・ご協力を賜りますよう今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

2006年3月

甲府市教育委員会
教育長 角田智重

例　　言

1. 本書は、平成7・8年度に実施した甲府市内における各種開発行為に伴う試掘調査の報告書である。
2. 本書に収録した調査は、文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。調査経費は国・県の補助金の交付を受けた。
3. 調査は、信藤祐仁・平塚洋一・志村憲一・佐々木満・兒玉好美（元教育委員会文化財主事）が担当した。
4. 本書の執筆は信藤祐仁・平塚洋一・志村憲一・佐々木満が、編集は原 正邦（文化スポーツ課長）を編集責任者とし、志村憲一が行った。
5. 本書の挿図は、内藤真千子・栗田かず子・清水秀樹・中村里恵・鈴木由香・佐野香織が作成した。
6. 本書に係わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。
7. 発掘調査にあたり、土地所有者の御協力を賜った。

8. 調査参加者

相沢陽子	兩宮英郎	池谷富士子	岡 悅子	小沢恵津子	小沢菊太郎
長田富夫	金井いく代	茅嶋一男	岸本美苗	倉田勝子	小池信夫
小池孝男	小宮通子	坂本しのぶ	佐田金子	三枝袈裟男	清水公子
末木義光	鈴木由香	武井美知子	手塚房子	長澤晴雄	中田芳仁
根岸利昭	平沢則子	深沢久子	藤原洋子	本道歌子	本道政清
山田利三	渡辺茂	渡邊百合子			(敬称略)

凡　　例

1. 造構・遺物番号は、各調査地区単位で通し番号とした。
2. 造構名は、各造構の性格や形状に応じて調査当時、各担当者が名称を付した。今後、新たな調査対象により全体の把握がなされた場合、変更が生じる可能性がある。
3. 全体図・造構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。
4. 調査位置図には、甲府都市計画図（1/50,000）を使用した。
5. 遺物観察表の色調は「標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997 後期）に基づいて記載した。
6. 図面のスクリーントーン指示は、以下のとおりである。



・遺物 赤色塗彩
・造構炭範囲



・遺物 黒色土器



・造構 焼土



・遺物 粘土痕付着



・遺物 タール付着



・石

目 次

序

例 言

凡 例

目 次

市内遺跡試掘調査

調査位置図	1
調査区一覧表	2 ~ 3
1 深田遺跡（第2次）	4
2 上町天神遺跡	4
3 緑が丘二丁目遺跡（第8次）	5
4 音羽遺跡	5 ~ 6
5 緑が丘一丁目遺跡（第5次）	6
6 加牟那塚古墳	7
7 塩部遺跡（第2次）	7 ~ 8
8 上土器遺跡（第2次）	9
9 大坪遺跡（第8次）	9
10 緑が丘一丁目遺跡（第6次）	10
11 宮の脇A遺跡（第2次）	11
12 大手下遺跡・武田城下町遺跡	11
13 緑が丘二丁目遺跡（第9次）	12
14 緑が丘二丁目遺跡（第10次）	12
15 本郷遺跡	13
16 朝氣遺跡（第12次）	14
17 塩部遺跡（第3次）	14
18 十丁遺跡	14 ~ 15
19 家之前遺跡（第1次）	16
20 金山遺跡	16

21	善光寺境内遺跡	17～18
22	大坪遺跡（第9次）	19
23	榎田遺跡（第1次）	19
24	桜林B遺跡	20
25	家之前遺跡（第2次）	20
26	村内石山遺跡	21
27	汗タリ遺跡	22
28	銀杏之木遺跡	23
29	金塚西遺跡（第2次）	24～25
30	砂間遺跡	25～26
31	榎田遺跡（第2次）	26～28
32	幸町A遺跡	29～31
33	地蔵北遺跡	32
34	酒折遺跡	32
35	塩部遺跡（第4次）	33～34
36	天神西遺跡（第1次）	34～35
37	榎田遺跡（第3次）	35～50
38	家之前遺跡（第3次）	51
39	榎田遺跡（第4次）	51
40	家之前遺跡（第4次）	52～53
41	御崎田遺跡	54
42	天神西遺跡（第2次）	54～55
43	永井遺跡	56
44	朝氣遺跡（第13次）	56

写 真 図 版

図版 1	緑が丘遺跡二丁目遺跡（第8次）、音羽遺跡、加牟那塚古墳、 上土器遺跡（第2次）、緑が丘一丁目遺跡（第6次）(1).....	57
図版 2	緑が丘遺跡一丁目遺跡（第6次）(2)、大手下遺跡・武田城下町遺跡、十丁遺跡、 善光寺境内遺跡(1).....	58
図版 3	善光寺境内遺跡(2).....	59
図版 4	善光寺境内遺跡(3).....	60
図版 5	善光寺境内遺跡(4)、榎田遺跡（第1次）、桜林B遺跡、汗タリ遺跡、 金塚西遺跡（第2次）(1).....	61
図版 6	金塚西遺跡（第2次）(2).....	62
図版 7	榎田遺跡（第2次）(1).....	63
図版 8	榎田遺跡（第2次）(2)、幸町A遺跡、塙部遺跡（第4次）.....	64
図版 9	天神西遺跡（第1次）、家之前遺跡（第3次）、家之前遺跡（第4次）(1).....	65
図版10	家之前遺跡（第4次）(2)、天神西遺跡（第2次）、永井遺跡.....	66
図版11	榎田遺跡（第3次)(1).....	67
図版12	榎田遺跡（第3次)(2).....	68
図版13	榎田遺跡（第3次)(3).....	69
図版14	榎田遺跡（第3次)(4).....	70
図版15	榎田遺跡（第3次)(5).....	71



● 番号は調査一覧表と対応

図1 調査位置図

平成 7 年度 市内遺跡調査区一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	遺構	遺物
1	深田遺跡(第2次)	国玉町606	個人住宅建設	4m ²	4/5~6	なし	土師器小片
2	上町天神遺跡	上町1739-3地	物置建設	1m ²	4/6~7	なし	土師器小片
3	緑が丘二丁目遺跡(第8次)	緑が丘二丁目893-10	個人住宅建設	4m ²	4/10~13	なし	土師器小片
4	音羽遺跡	音羽町443-9	個人住宅建設	4m ²	5/9~17	上坑	环、須恵器
5	緑が丘一丁目遺跡(第5次)	緑が丘一丁目1085-6	個人住宅建設	4m ²	5/30	土坑	土師器小片
6	加牟那塚古墳	千保三丁目2547-4地	下水道工事	4m ²	5/30	周溝	なし
7	塙部遺跡(第2次)	塙部一丁目367-1他	店舗建設	500m ²	6/12~7/10	溝	陶磁器
8	上土器遺跡(第2次)	桜井町238	個人住宅建設	20m ²	6/22~26	溝	土師器小片、布日瓦
9	大坪遺跡(第8次)	横根町460	事務所建設	2m ²	7/11~13	なし	なし
10	緑が丘一丁目遺跡(第6次)	緑が丘一丁目108-1	個人住宅建設	17m ²	7/20~28	溝	环、高杯、壺
11	宮の腰A遺跡(第2次)	善光寺二丁目2744	個人住宅建設	1.6m ²	8/9	なし	陶磁器
12	大手下遺跡・武田城下町遺跡	大手三丁目3644-1	集合住宅建設	20m ²	8/10~11	なし	なし
13	緑が丘二丁目遺跡(第9次)	緑が丘二丁目921-1他	個人住宅建設	8m ²	8/18	なし	土師器小片
14	緑が丘二丁目遺跡(第10次)	緑が丘二丁目897-5	個人住宅建設	4m ²	8/18	なし	なし
15	本郷遺跡	善光寺三丁目2359-1	集合住宅建設	50m ²	10/11~16	溝	土師器小片
16	朝氣遺跡(第12次)	朝氣二丁目642-6	個人住宅建設	4m ²	10/19	なし	土師器小片
17	塙部遺跡(第3次)	塙部三丁目地内	県道工事	100m ²	10/20~11/1	なし	なし
18	十丁遺跡	里吉三丁目823他	宅地造成	12m ²	1/8~17	溝	高杯、壺、骨破
19	家之前遺跡(第1次)	里吉三丁目1001	宅地造成	12m ²	2/1~5	なし	須恵器
20	金山遺跡	高室町724-2	個人住宅建設	2m ²	2/27	なし	なし
21	善光寺境内遺跡	善光寺三丁目2669-1	恒信会館建設	90m ²	3/6~15	なし	かわらけ、陶磁器、壺、骨、上製品

平成 8 年度 市内遺跡調査区一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	遺構	遺物
22	大坪遺跡(第9次)	横根町275-1-3	個人住宅建設	8m ²	4/2~3	なし	
23	横田遺跡(第1次)	千塚五丁目3006-1	個人住宅建設	9m ²	4/2~9	なし	环、甕
24	桜林B遺跡	宮原町248-1	個人住宅建設	8m ²	4/15~19	なし	土師器小片
25	家之前遺跡(第2次)	里吉二丁目1003、1010地	店舗建設	33m ²	5/13~24	なし	土師器、須恵器、陶器、石製品
26	村内石山遺跡	横根町24-1他	グラウンド造成	26m ²	5/27~6/4	断崖	土師器、环
27	汗タリ遺跡	下今井町18-1他	市民センター建設	75m ²	6/13~21	なし	銅製品
28	銀合の木遺跡	東光寺二丁目310-1	集合住宅建設	15m ²	7/1~11	溝跡、土坑	土師器、環
29	金塚遺跡(第2次)	千塚三丁目地内	公園建設	100m ²	7/11~8/26	なし	环、台付甕、壺、須恵器、灰釉陶器、白磁
30	砂闘遺跡	高室町国母工業団地162	工場増築	6m ²	7/15~17	なし	
31	横田遺跡(第2次)	千塚五丁目2805-4-5地	集合住宅建設	45.7m ²	7/25~8/20	溝、堅穴住居、土坑	土師器、环、甕、須恵器、白磁、青磁
32	幸町A遺跡	幸町2785地4筆	マンション建設	48m ²	8/29~9/20	溝、堅穴住居、土坑	土器、甕、台付甕、壺、鉢
33	地藏北遺跡	東光寺三丁目1713地	集合住宅建設	12m ²	9/6~17	土坑	土師器小片、須恵器、陶磁器
34	酒折遺跡	酒折三丁目1283-1地	運動場造成	8m ²	9/18~19	なし	绳文土器、土師器小片
35	塙部遺跡(第4次)	塙部二・三丁目地内	道路改良工事	146m ²	10/1~17	溝跡、土坑	土師器、环、灰釉陶器、鐵管
36	天神西遺跡	千塚四丁目3331地	個人住宅建設	12m ²	10/2~15	土坑	
37	横田遺跡(第3次)	千塚五丁目2926-1	宅地造成	320m ²	10/21~1/29	溝、堅穴住居、土坑	环、高环、甕、灰釉陶器、白磁、布目瓦
38	家之前遺跡(第3次)	里吉三丁目790、793-1	集合住宅建設	46m ²	11/6~21	なし	
39	横田遺跡(第4次)	千塚五丁目2962-7	個人住宅建設	4m ²	11/13~14	なし	かわらけ
40	家之前遺跡(第4次)	里吉三丁目982-1	集合住宅建設	80m ²	11/6~21	溝跡	高环、甕、台付甕
41	御崎田遺跡	東光寺二丁目4-349地	宅地造成	40m ²	2/6~12	なし	土師器小片
42	天神西遺跡(第2次)	千塚四丁目3230地	集合住宅建設	28m ²	2/19~25	堅穴住居	环、甕、灰釉、内耳土器、陶器、平瓦
43	永井遺跡	小松町25-1	個人住宅建設	4m ²	3/4	なし	环、須恵器、人骨
44	朝氣遺跡(第13次)	朝氣二丁目670-2	個人住宅建設	4m ²	3/11~12	なし	土師器小片

1 深田遺跡（第2次）

調査位置 甲府市国玉町606
調査原因 個人住宅建設
対象面積 500m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成7年4月5日～6日
調査担当 児玉好美

調査の概要

深田遺跡は濁川左岸の盆地平坦部標高約255mに立地する古墳時代の遺跡であり、調査区は遺跡範囲の中央部に位置する。近隣には古墳時代の塚越遺跡や中世の落合氏館跡と、延喜式内社で甲斐国三ノ宮の玉諸神社が鎮座している。

調査区に2m四方のグリッドを設定し、地表下約45cm掘削を行った。第1～4層内からは土師器小片が約30点出土した。遺構に関しては検出されなかった。

(志村憲一)



図1 基本層序

2 上町天神遺跡

調査位置 甲府市上町1739-3, 1739-4, 1740-1
調査原因 物置建設
対象面積 2,642m²
調査面積 1 m²
調査期間 平成7年4月6日～7日
調査担当 児玉好美

調査の概要

上町天神遺跡は、濁川左岸の盆地中央部標高約255mに位置する、古墳～平安時代の遺跡である。調査区は遺跡範囲の北西部にあたり、耕地が広がる。周辺には、平安期の大土井遺跡・明石西河原遺跡、中世段階の土尻遺跡などが存在する。

調査区に1m四方のグリッドを設定し、地表下約120cmまで掘削を行った。地表下約60cmまでの第1～3層から土師器小片が出土しているが、いずれの層も擾乱を受けていた。遺構に関しては検出されなかった。

(志村憲一)



図1 基本層序

3 緑が丘二丁目遺跡（第8次）

調査位置 甲府市緑が丘二丁目893-1

調査原因 個人住宅建設

対象面積 149.37m²

調査面積 4m²

調査期間 平成7年4月10日～13日

調査担当 児玉好美

調査の概要

緑が丘二丁目遺跡は縄文から平安時代までの散布地である。遺跡範囲中央部東側の標高296m地点に位置し、現状周辺は住宅地である。

調査区域内に2m四方のグリッドを設定し、地表下約0.9m地点まで掘削を行った。第1～4層までの堆積層が確認されたが、近代の搅乱を受け、遺構は検出されなかった。

出土遺物は、古墳時代後期鬼高期の土師器小片が約30点出土している。
(志村憲一)

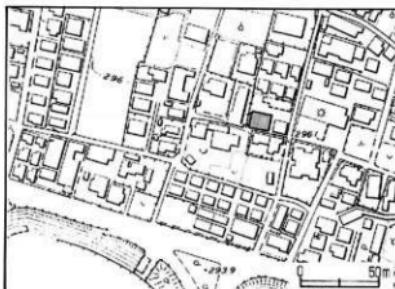


図1 基本層序

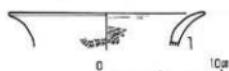


図2 出土遺物

4 音羽遺跡

調査位置 甲府市音羽町443-9

調査原因 個人住宅建設

対象面積 285.94m²

調査面積 4m²

調査期間 平成7年5月9日～17日

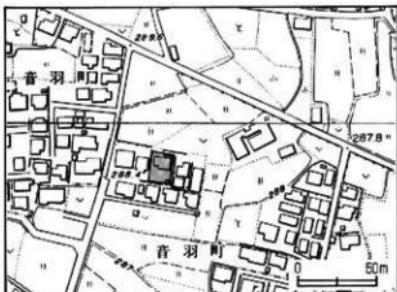
調査担当 児玉好美

調査の概要

音羽遺跡は、荒川左岸標高288mに位置する弥生時代から平安時代までの散布地である。調査区東側200m地点では、平成4・5年度山梨県埋蔵文化財センターが調査を行い、弥生時代後期から平安時代の住居跡が28軒と古墳時代前期の方形周溝墓4基が検出された。

調査区域内に2m四方のグリッドを設定し、地表下約1.3mまで掘削を行った。遺物包含層は第1～7層である。特に試掘坑北西隅の第5層からは、炭化材が折重なった状況で検出された。さらに炭化材直下からは、北西方向に広がるものと考えられる、深さ約20cmの土坑の一部が検出された。出土遺物は完形品を含み極めて良好な状況で確認され、いずれも8世紀第四半期に位置づけられる甲斐型土器及び須恵器が出土した。

炭化材及び土坑の検出状況から、8世紀代の焼失住居の一部分であることも考えられる。
(志村憲一)



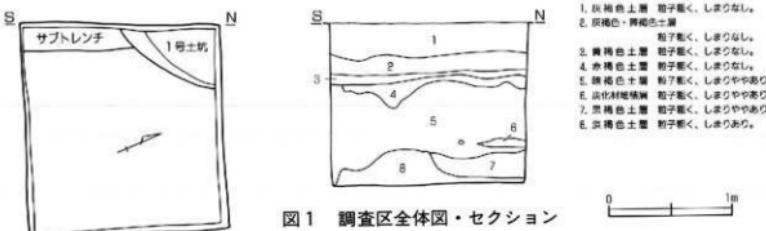


図1 調査区全体図・セクション



図2 出土遺物

表1 音羽遺跡出土遺物観察表

単位: cm ()は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法 径	器 高	底 径	調 整	色 調	焼 成	備 考
1	土器	环	(11.2)	—	—	ロクロナデ・ケズリ	7.5YR 7/4 銀い緋	良	
2	土器	环	(10.8)	(4.4)	6.8	ロクロナデ・ケズリ・暗文	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
3	土器	环	(11.7)	(4.6)	6.6	ロクロナデ・ケズリ・暗文	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
4	土器	环	(11.6)	(5.4)	(6.2)	ロクロナデ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
5	須恵器	蓋	—	(1.5)	—	ロクロナデ	N 5/灰	良	

5 緑が丘一丁目遺跡（第5次）

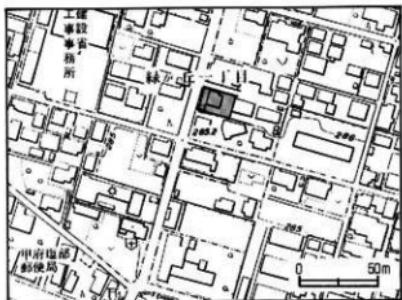
調査位置 甲府市緑が丘一丁目108-5、108-6

調査原因 個人住宅建設

対象面積 312.45m²調査面積 4m²

調査期間 平成7年5月30日

調査担当 児玉好美



調査の概要

緑が丘一丁目遺跡は、相川右岸に立地する古墳時代の散布地である。遺跡範囲の中央部南側標高約286m地点に位置する。現状周辺は住宅地である。

調査区域内に2m四方のグリッドを設定し、地表下約1mまで掘削を行った。地表下約70cmに位置する第6層内から、直径約10cmのピットが2基検出された。遺物は土師器小片3点が出土した。（志村憲一）

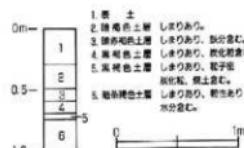
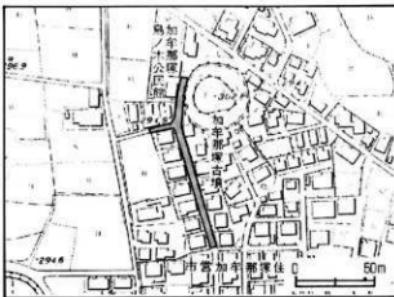


図1 基本層序

6 加牟那塚古墳

調査位置 甲府市千塚三丁目2547-4他
調査原因 下水道工事
調査面積 4m²
調査期間 平成7年5月30日
調査担当 信藤祐仁



調査の概要

調査区は、県史跡「加牟那塚古墳」の西裾部分を巻く市道に、古墳の中心から放射状になるように1m×4mのトレンチを1本設定した。周溝の一部を確認することができたが、道路の外側まで延びており周溝の規模は不明。深さは確認面から約50cmであり、遺物としての埴輪や土師器はまったく確認できなかった。

南側の個人住宅で浄化槽を設置後の移動した土中から、形象埴輪（5.6）と円筒埴輪（1.2.3）が採集された。5は馬形埴輪の鉢部分で鉢口の切れ込みも確認でき、6は人物埴輪の衣服の綴じ紐の結び目と推定される。

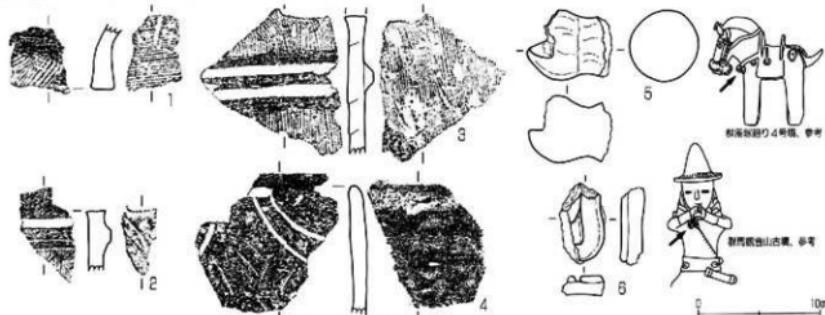


図1 出土遺物

7 塩部遺跡（第2次）

調査位置 甲府市塩部一丁目367-1他
調査原因 店舗建設
対象面積 11,530.08m²
調査面積 500m²
調査期間 平成7年6月12日～7月10日
調査担当 児玉好美

遺跡の概要

調査区は、湯川の両岸にまたがって位置し標高は約275mである。平成7年に北西側約200m地点の甲府工業高校敷地で山梨県埋蔵文化財センターが行った調査では、縄文から現代



に至る遺構・遺物が検出されている。

調査の概要

湯川の両岸の調査区域内に8箇所のトレンチを設定し、遺構・遺物が検出された下記トレンチについて記載する。

- T-1 地表下約2mまで掘削した。地表下1.9mまで擾乱を受けていた。時代不明の土器数点、瀬戸美濃系陶器1点、近代の遺物が大量に検出された。
- T-2 南北方向のトレンチからはN-42°-W方向をとる幅2m、深さ0.3mの溝跡と、N-60°-Wに軸線をもつ幅50cm、深さ20cmの溝が1m間隔をあけて2条検出された。遺構内からは近世から近代にかけての陶磁器が検出された。
- T-2 東西方向のトレンチでは、ほぼ磁北方向の幅4.5m、深さ0.5mの南北方向の溝が1条検出され、遺構内からは近世の瀬戸・美濃系陶器が1点出土した。

(志村憲一)

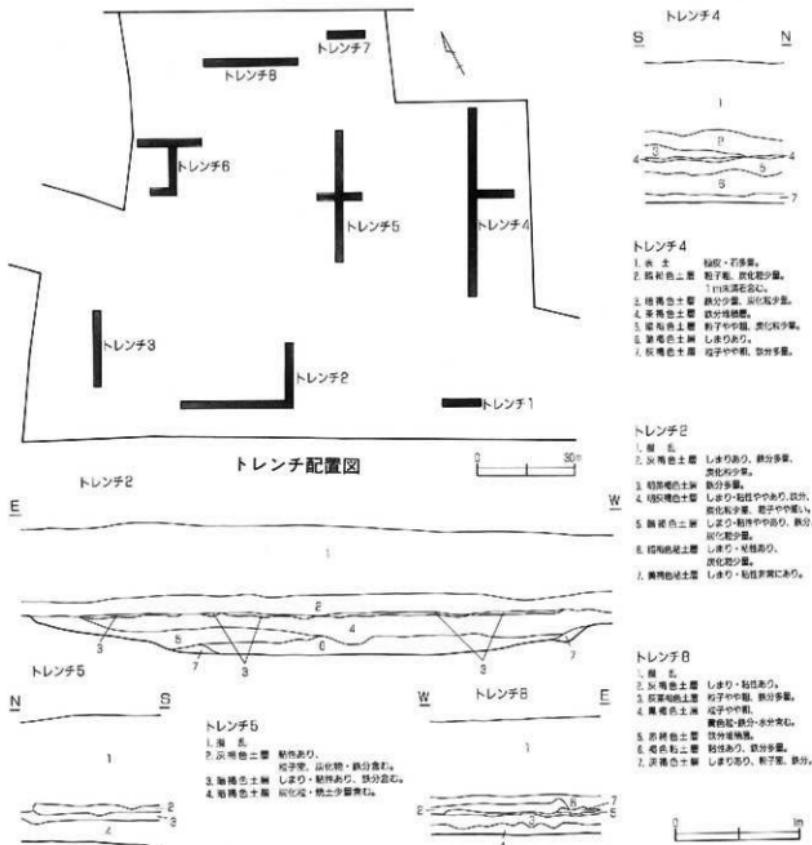


図2 トレンチ2・4・5・8セクション

8 上土器遺跡（第2次）

調査位置 甲府市桜井町238
調査原因 個人住宅建設
対象面積 250.22m²
調査面積 20m²
調査期間 平成7年6月22日～26日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

上土器遺跡は、奈良時代に甲斐國分寺の瓦を焼成した瓦窯跡と、古墳時代後期の集落跡が過去の調査により確認されている。

今回の調査は、対象地に2×10mのトレンチを設定し実施した。調査の結果、地表から約70cmの深さでトレンチ南側に幅約20cmの溝状構造が確認できた。また、さらに掘り下げるところではAT層とみられる火山灰層が確認できた。

出土遺物に古墳時代後期の甕(1)や瓦片(4、5)、紡錘車(3)がある。

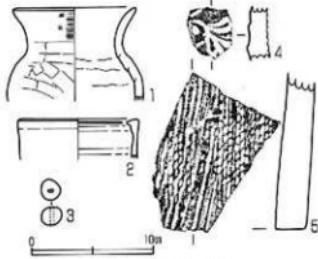


図1 出土遺物

9 大坪遺跡（第8次）

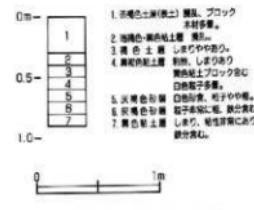
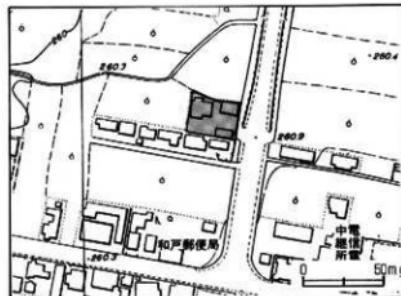
調査位置 甲府市横根町460
調査原因 事務所建設
対象面積 266.73m²
調査面積 2m²
調査期間 平成7年7月11日～13日
調査担当 児玉好美

遺跡の概要

大坪遺跡は、古墳～平安時代の生産跡である。遺跡範囲の南東部、標高約260mに位置する。

調査の概要

調査区域内に2m四方のグリッドを設定し、地表下約0.9m地点まで掘削を行った。地表下約0.4mまでは擾乱を受け、5・6層は砂層であり、河川の堆積層と考えられる。遺構・遺物は全く確認されなかった。



(志村憲一)

図1 基本層序

10 緑が丘一丁目遺跡（第6次）

調査位置 甲府市緑が丘一丁目108-1
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 420.0m²
 調査面積 17m²
 調査期間 平成7年7月20日～28日
 調査担当 平塚洋一

調査の概要

緑が丘一丁目遺跡は、相川によって形成された扇状地の西端に立地する。近年（平成16～17年度）の調査により、古墳時代後期の集落跡が検出されている。

当初 2×4 m のトレンチを設定し、調査を行ったところ、古墳時代後期の土器を含んだ溝状造構が検出できた。溝跡からの出土量が集中して多量だったため、溝の延長を確認するため、拡張して調査を行った。

出土遺物は古墳時代後期に位置付けられる。壺、高壺、甕等が出土しているが、ベンガラによる朱が塗布されている。

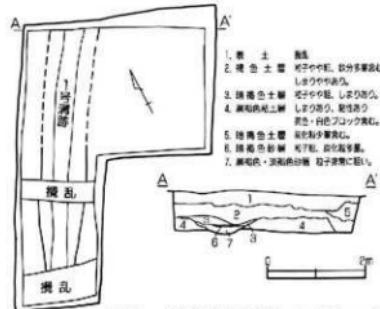


図1 調査区全体図・セクション

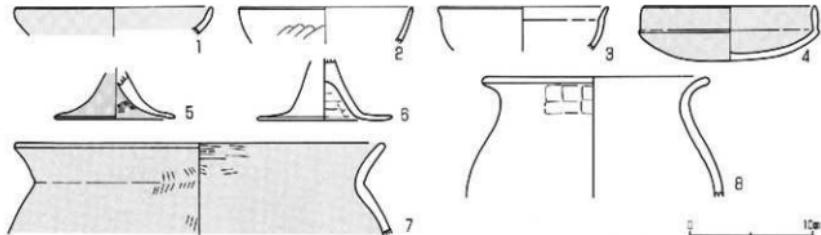


図2 出土遺物

表1 緑が丘一丁目遺跡（第6次）出土遺物観察表

番号	種別	器種	法 口 径			調 整	色 調	焼 成	備 考
			径	壁 厚	底 径				
1	土器	壺か	(16.0)	—	—	ナテ・ミガキ	10YR 6/4 鈍い黄橙	良	内外赤色塗彩
2	土器	壺	(14.0)	—	—	ナテ・ケズリ	10YR 6/3 鈍い黄橙	良	
3	土器	壺	(14.0)	—	—	ナテ	7.5YR 6/6 棕	良	
4	土器	壺	(14.0)	(3.6)	—	ナテ・ミガキ	10R 4/8 赤	良	内外赤色塗彩
5	土器	高壺	—	—	(10.0)	ナテ・ケズリ	5YR 6/4 鈍い橙	良	内外赤色塗彩
6	土器	高壺	—	—	(11.0)	ナテ・ケズリ	10YR 6/4 鈍い黄橙	良	
7	土器	甕	(30.0)	—	—	ハケ	10YR 4/8 赤	良	内外赤色塗彩
8	土器	甕	(18.4)	—	—	ナテ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	

単位: cm ()は反転実測による復元値

11 宮の脇A遺跡（第2次）

調査位置 甲府市善光寺二丁目2744
調査原因 個人住宅建設
対象面積 424.058m²
調査面積 1.6m²
調査期間 平成7年8月9日
調査担当 児玉好美

遺跡の概要

当遺跡は北原扇状地扇央部標高約270mに位置する縄文・平安から近世にかけての散布地である。県道を挟んで東側には甲斐善光寺が存在し、調査区は善光寺の子院が存在したものと考えられる。

調査の概要

調査区域内に2m×0.8mの試掘坑を1箇所設定し、地表下約0.6mまで掘削を行った。試掘坑東端より、径0.5m、深さ0.2mのピットが1基確認された。出土遺物は、近世18世紀以降の、煙管、寛永通宝、陶磁器小片である。

（志村憲一）

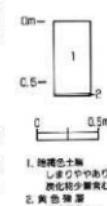


図1 基本層序

12 大手下遺跡・武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目3644-1
調査原因 集合住宅建設
調査面積 20m²
調査期間 平成7年8月10日～11日
調査担当 信藤祐仁

調査の概要

武田氏館跡の東南約250m、標高約333m、西富士川右岸に位置する。武田家臣屋敷配置図（古府の図）では、馬場、美濃守信春の屋敷地の範囲内に比定され、「古府中村絵図」（武田神社蔵）では「大手下畠」の記載がある。

集合住宅建設に伴い、東西方向に2×10mのトレーナーを設定し、地表面から重機で慎重に掘削した後、底面と断面を観察した。地表下110cmまで客土で、その下に水田耕作土層があり、遺構・遺物とも皆無であった。

畠の境界の石列中に茶白の存在が確認された。下白の受け部の破片で、安山岩製、復元口径約37.0cmを測る。

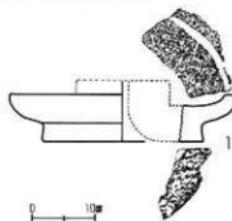
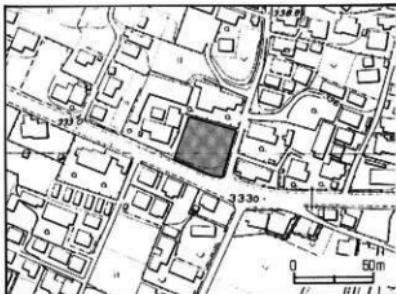
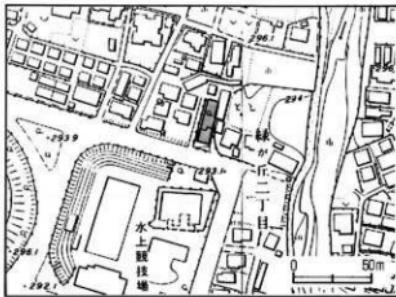


図1 出土遺物

13 緑が丘二丁目遺跡（第9次）

調査位置 甲府市緑が丘二丁目921-1・3,
923-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 495.5m²
調査面積 8 m²
調査期間 平成7年8月18日
調査担当 児玉好美



遺跡の概要

調査区は相川右岸の標高約294m地点に位置する、縄文から平安時代までの散布地である。現状周辺は住宅地である。



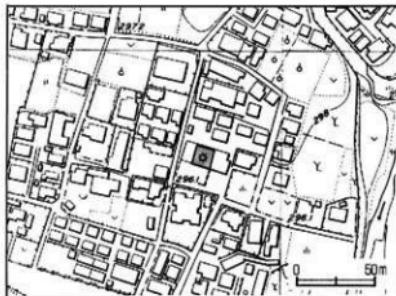
調査の概要

調査区域内に1.5m×5.5mのトレンチを設定し、地表下約0.8mまで掘削を行った。遺構はなく、土師器小片が1点確認されたのみである。堆積層は、1～3層に分層される。第3層からは多量の河原石が検出され、旧河床であったものと考えられる。
(志村憲一)

図1 基本層序

14 緑が丘二丁目遺跡（第10次）

調査位置 甲府市緑が丘二丁目897-5
調査原因 個人住宅建設
対象面積 131.53m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成7年8月18日
調査担当 平塚洋一



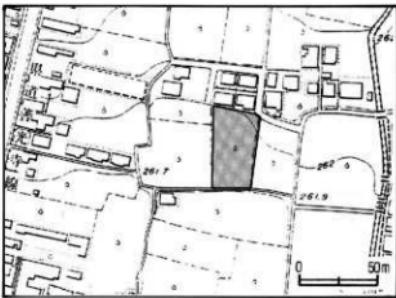
調査の概要

調査地は宅地造成工事に先立ち、進入道路部分について試掘調査を実施した地域であった（「緑が丘二丁目遺跡（第5次）」甲府市教育委員会『甲府市内遺跡II』）。その調査データから現地表面から100cmまでは、遺物包含層に達しないことが想定されていた。

調査の結果、現地表面から60cmまでが擾乱層、60～80cmが暗褐色粘土層、それより下層が暗灰色土層（自然堆積層）であった。人工的な掘り込みや土器等は検出できなかった。

15 本郷遺跡

調査位置 甲府市善光寺三丁目2359-1
調査原因 集合住宅建設
対象面積 1,222m²
調査面積 50m²
調査期間 平成7年10月11日～16日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

本郷遺跡は、高倉川に開析された扇状地に立地する。本郷遺跡の周辺には本郷B遺跡（平安時代）・同C遺跡（古墳～中世）があり、北には武田信玄により遷座させられた甲斐善光寺が存在する。

調査区に幅2mでT字状にトレーンチを設定し、調査を実施した。地表から30cmの地層を精査した結果、北東から南西方向にかけて溝状遺構が2条検出できた。溝の延長を確認するため、延長方向に1×4mのトレーンチを設定し調査を行い、溝が延長することを確認した。出土遺物には土師質土器小片が2点確認できた。

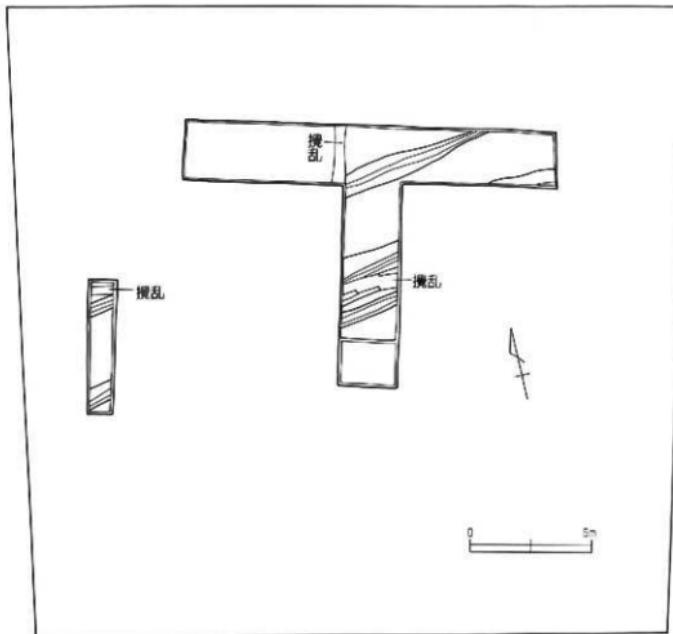


図1 調査区全体図

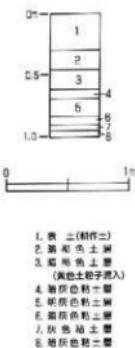
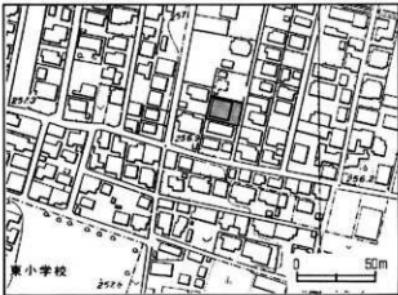


図2 基本層序

16 朝氣遺跡（第12次）

調査位置 甲府市朝氣二丁目642-6
調査原因 個人住宅建設
対象面積 307.91m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成7年10月19日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査対象地に2×2mの試掘グリッドを設定し、調査を実施した。
地表から40cmまで擾乱、40~70cmまで灰色粘土層、70cmより下層は砂層が堆積する状況を確認した。出土遺物は、わずかに土師質土器の小片が1点出土しただけである。

17 塩部遺跡（第3次）

調査位置 甲府市塩部三丁目地内
調査原因 県道工事
対象面積 118.8m²
調査面積 100m²
調査期間 平成7年10月20日~11月1日
調査担当 平塚洋一

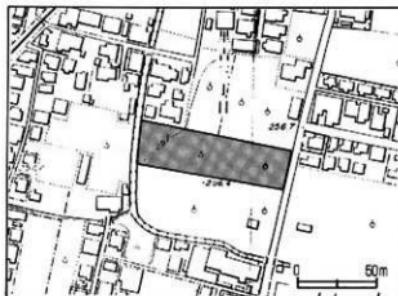


調査の概要

主要地方道甲府・昇仙峡線（通称アルプス通り）の造成にともなう下水道敷設に先立つ試掘調査である。1m幅で延長100mのトレンチ調査を実施した。約1mの深さで掘削・精査した結果、人工的な遺物は全く検出できなかった。また、北東から南西方向の自然流路跡が3条確認できた。

18 十丁遺跡

調査位置 甲府市里吉三丁目823,824,827-1
調査原因 宅地造成
対象面積 2,628.95m²
調査面積 12m²
調査期間 平成8年1月8日~17日
調査担当 平塚洋一



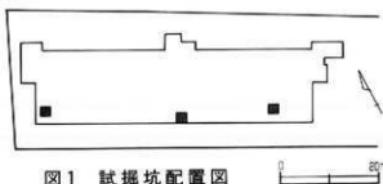


図1 試掘坑配置図



図2 基本層序

十丁遺跡は、東進してきた濁川と西進してきた十郎川が合流し、南へと方向を変える地点から南西約1.2kmに位置する。標高257m付近に位置し、濁川の氾濫により形成された沖積地である。平成14年度には宅地造成に先立つ試掘調査を実施した結果、古墳時代の土器や溝跡が検出できたため、拡張し調査を実施している。その結果、竪穴住居跡や方形周溝墓が確認された。

調査対象地に $2 \times 2\text{ m}$ の調査グリッドを東・中・西の3箇所設定し、調査を実施した。地表から50~70cmの地層から古墳時代前期の土器が数点出土した。西に設定した調査区では、地表から60cmの地層で溝状構造が検出できた。その規模は幅15cm、確認面からの深さ約10cm程度である。

出土遺物11は、真鍮製の鉢状金具である。外面に蓮華状のレリーフが施され、吊り下げ用の金具を留める穴が2箇所あけられ、うち1箇所には金具が残る。

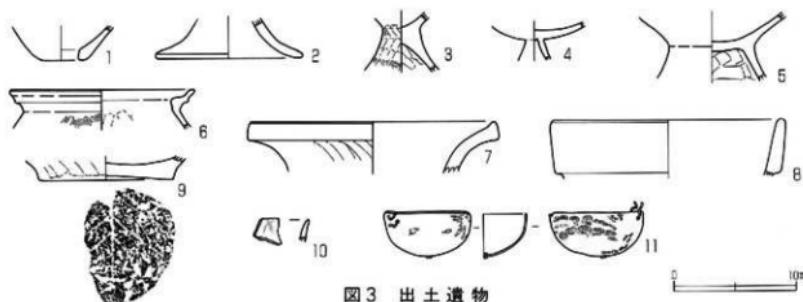


図3 出土遺物

表1 十丁遺跡出土遺物観察表

単位: cm ()は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法 口 径 深 度 底 高 底 径			調 整	色 調	焼 成	備 考
			径	高	底				
1	土器	瓶	—	—	3.5		5YR 6/6 棕	良	
2	土器	高环	—	—	(12.0)	ナデ	5YR 6/6 棕	良	
3	土器	高环	—	—	—	ケズリ	10YR 6/3 純い黄棕	良	
4	土器	高环	—	—	—		7.5YR 6/4 純い棕	良	
5	土器	口付甌	—	—	—	ナデ・ケズリ	7.5YR 7/3 純い棕	良	
6	土器	口付甌	(15.0)	—	—	ナデ・ハケ	10YR 6/4 純い黄棕	良	S字状口縁部
7	土器	広口盞	(20.0)	—	—	ナデ・ケズリ	7.5YR 6/4 純い棕	良	
8	土器	盞	(19.2)	—	—	ロクロナデ	5YR 6/6 棕	良	
9	土器	甌	—	—	(10.8)	ケズリ	10YR 6/3 純い黄棕	良	本葉底
10	青磁	碗	—	—	—		5Y 7/1 灰白	良	蓮弁紋
11	金属製品	仏具	7.0	3.5	—			良	真鍮製・外面に旋削

19 家之前遺跡（第1次）

調査位置 甲府市里吉三丁目1001
調査原因 宅地造成
対象面積 1,166m²
調査面積 12m²
調査期間 平成8年2月1日～5日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

家之前遺跡は、前述の十丁遺跡と同じく濁川の氾濫による沖積地に所在する。標高257mと甲府盆地の中でも最も低い地域に位置する。『角川日本地名大辞典』19 山梨県（1983）によると、家之前遺跡が所在する里吉地区内に御前塚古墳という円墳があるとされる。

店舗建設予定地に2×2mの調査グリッドを3箇所設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、遺構は全く検出できなかった。出土遺物は中央に設定した調査グリッドから須恵器片が1点出土しただけである。しかし、同じ遺跡のなかでは方形周溝墓も確認されており、注意が必要な地域である。



図1 基本層序

20 金山遺跡

調査位置 甲府市高室町724-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 147.15m²
調査面積 2m²
調査期間 平成8年2月27日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

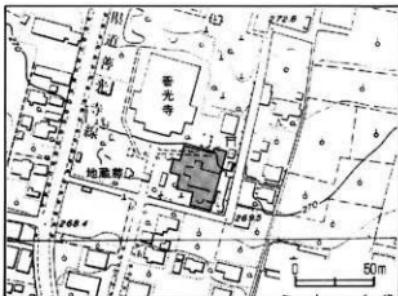
金山遺跡が所在する高室町は甲府市南部、荒川下流で笛吹川と合流する付近に位置する。高室町は、武田信虎の時代、家臣の高室氏が居宅を移したことにより、その名前が冠せられたとされる。調査区に隣接して江戸時代から明治年間にかけて建設された建物が残り、平成17年に県指定文化財「高室家住宅」として指定された。

調査の結果、地表から約1mまで砂層が堆積しそれより下層は1.2mまで暗灰色のシルト層が堆積していた。出土遺物は確認できなかった。調査地点は鎌田川に隣接し、氾濫の影響を受けたことが推測される。



21 善光寺境内遺跡

調査位置 甲府市善光寺三丁目2669-1
調査原因 境内開発建設
対象面積 494.06m²
調査面積 90m²
調査期間 平成8年3月6日～15日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

甲斐善光寺は、武田信玄が上杉謙信との川中島の合戦により信州善光寺が罹災することをおそれ、永禄元年（1558）に仏像や経典、僧侶などを甲斐に移し建立したものである。

創建当時の建物は江戸時代中期に火災に遭い、そのほとんどを失ったため、30年の歳月をかけて復元したものが現在の本堂（金堂）である。桁行約38m、梁行約23m、高さ約26mの規模を誇り、全国でも五指に入る木造建築物である。しかし、創建当時はさらに大きな規模だったとされ、今回の調査は建築当時の伽藍配置や建物の規模を確認するための調査であった。

調査は既存建物（昭和期建設）部分を撤去し、建築予定建物の範囲にトレーナーを3箇所設定して実施した。調査の結果、中世まさかのぼる遺構は検出できなかった。出土遺物に内耳鍋、ロクロ成形のかわらけ等がある。

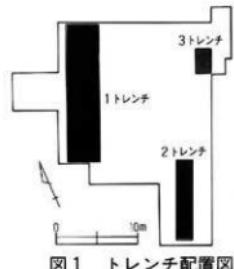


図1 トレーナー配置図

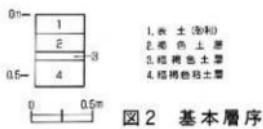


図2 基本層序

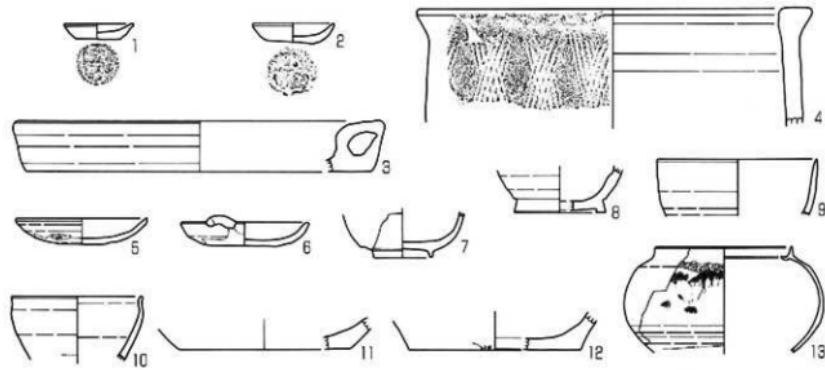


図3 出土遺物(1)

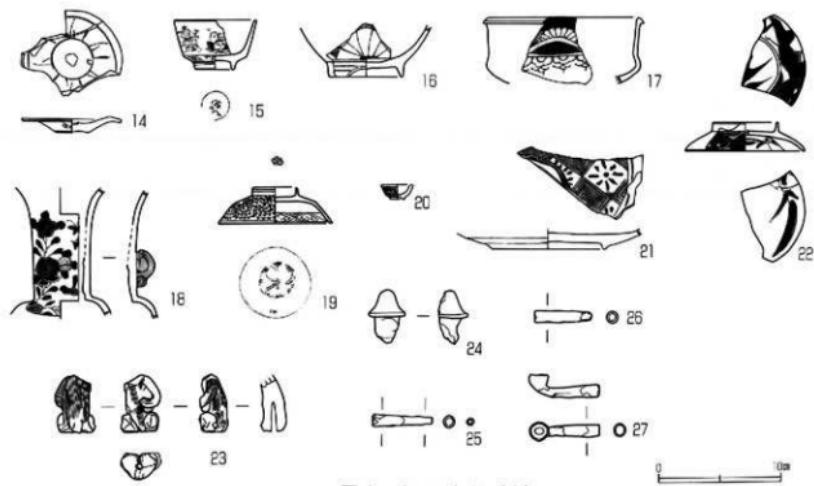


図4 出土遺物(2)

表1 善光寺境内遺跡出土遺物観察表

単位: cm ()は反転測定による復元値

番号	種別	器種	法 口 径 基 盤 高 底 径			調 整	色 調	焼成	備 考
			径	高	底				
1	土器	かわらけ	5.6	1.2	3.6	ロクロナデ	7.5YR 6/6 橙	良	
2	土器	かわらけ	6.6	1.5	4.3	ロクロナデ	5YR 5/6 明赤褐	良	
3	土器	内耳鉢	(29.5) (4.1) (28.0)			ロクロナデ	5YR 6/6 橙	良	
4	土器	甕	(32.0)	—	—	ナデ	7.5YR 6/6 橙	良	
5	陶器	皿	(10.5) (2.1) (4.0)				2.5Y 8/3 淡黄	良	
6	陶器	皿	10.3	2.0	5.6		2.5Y 8/2 灰白	良	
7	陶器	碗	—	—	4.7		2.5Y 8/3 淡黄	良	
8	陶器	壺	—	—	(7.4)		2.5Y 8/3 淡黄	良	
9	陶器	碗	(13.0)	—	—		2.5Y 8/3 淡黄	良	
10	陶器	碗	(10.4)	—	—		2.5Y 8/2 灰白	良	天目茶碗
11	陶器	壺体	—	—	(14.0)		10R 4/6 赤	良	
12	陶器	壺体	—	—	(14.0)		2.5Y 8/3 淡黄	良	
13	陶器	土瓶	(11.0)	—	—		10YR 7/6 明黄褐	良	
14	陶器	土瓶蓋	8.1	1.1	2.6		2.5Y 7/4 浅黄	良	
15	磁器	碗	(6.6) (4.1)	3.0				良	繪付
16	磁器	碗	—	—	(6.0)			良	染付 広葉輪
17	磁器	香炉	(12.0)	—	—			良	染付
18	磁器	花瓶	—	—	—			良	染付
19	磁器	蓋	9.2	3.0	3.5			良	染付
20	磁器	紅猪口	(2.6) (1.2)	1.2				良	
21	磁器	皿	—	—	(9.2)			良	染付
22	磁器	蓋	(9.8) (2.3) (5.4)					良	染付
23	土製品	泥人形	(4.6)	3.0	1.9		7.5YR 7/6 橙	良	瓶
24	土製品		(4.3)	3.0	—		10YR 3/1 黑褐	良	
25	金属製品	煙管	(4.8)	1.0	0.2				
26	金属製品	煙管	(4.5)	0.9	0.2				
27	金属製品	煙管	(5.6)	1.0	0.1				

22 大坪遺跡（第9次）

調査位置 甲府市横根町275-1・3
調査原因 個人住宅建設
対象面積 77.66m²
調査面積 8 m²
調査期間 平成8年4月2日～3日
調査担当 志村憲一

調査の概要

大坪遺跡は古墳～平安時代の生産遺跡である。調査区は十郎川の右岸標高約259mに位置する。

調査区域内に2m四方の試掘坑を2箇所設定し、地表下約1.4m地点まで人力で掘削を行った。両試掘坑からは遺構・遺物は確認されてはいない。地表下約1.5m地点には、幅5～10cmのA T層（2万5千年前の始良火山灰層）の堆積が確認されている。
(志村憲一)

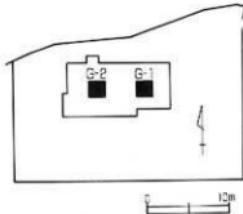
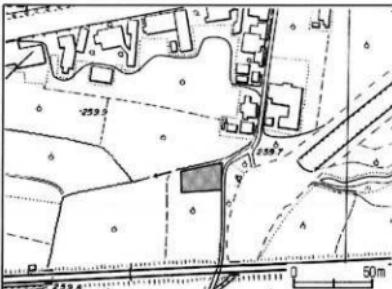


図1 試掘坑配置図

23 梶田遺跡（第1次）

調査位置 甲府市千塚五丁目3006-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 325.19m²
調査面積 9 m²
調査期間 平成8年4月2日～9日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

梶田遺跡は荒川により形成された扇状地の、標高305m付近に位置する。県埋文センターにより平成4年(1992)に発掘調査が実施され、方形周溝墓群が確認されている。

今回は、3×3mの試掘調査グリッドを設定し、調査を行った。地表下約30cmから土器・陶磁器が出土し始め、約100cm下層で遺構確認面となる。今回の調査では遺構は検出されなかった。また十分な保護層が保てるることを確認し調査を終了した。

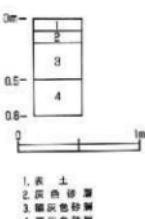


図1 基本層序

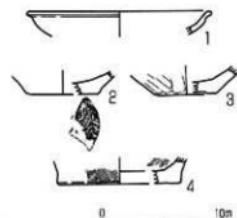


図2 出土遺物

24 桜林B遺跡

調査位置 甲府市宮原町248-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 139.47m²
調査面積 8 m²
調査期間 平成8年4月15日～19日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

桜林B遺跡は荒川と鎌田川に挟まれた地域の標高253m付近、両河川の氾濫により形成された沖積地に所在する。特に調査地は鎌田川から約30mの位置にある。調査地に2×2mの調査グリッドを2箇所設定し、調査を行った。

調査の結果、地表から80cmまでが盛土、その下に耕作土、褐色土、砂層となる。出土遺物は平安時代の土師質土器の小片が確認できた。

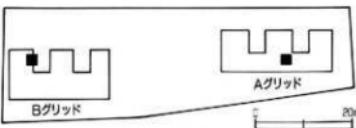
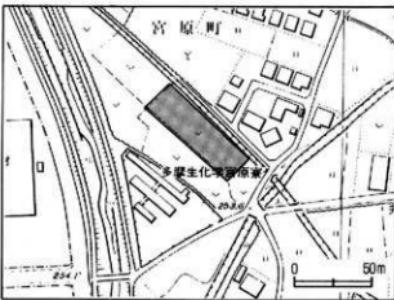


図1 試掘坑配置図

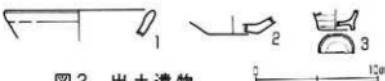


図2 出土遺物

25 家之前遺跡（第2次）

調査位置 甲府市里吉三丁目1003, 1010, 1012-2
調査原因 店舗建設
対象面積 2,650.6m²
調査面積 33m²
調査期間 平成8年5月13日～24日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

当初3×3mの調査グリッドを設定し調査を行った。西から1・2・3グリッドとし、1・2グリッドは地表から140cm掘り下げた結果、地表下80cmより下層が砂層となり、地表下130cmから湧水し始める。東端の3グリッドは地表下60cm付近から土器がやまとまって出土するため、東側に2m幅で拡張した。しかし、遺構は検出できず、地表下1.2mで湧水し始める。

調査の結果、西側には旧自然河道があったことが想定され、東側の微高地に集落が展開したものと考えられる。

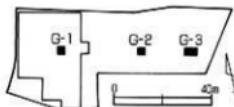
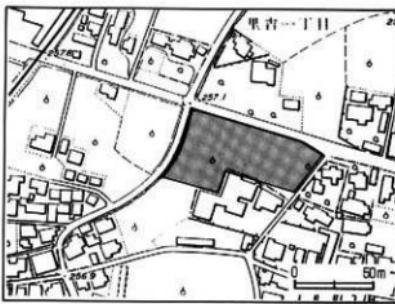


図1 試掘坑配置図



図2 基本層序

26 村内石山遺跡

調査位置 甲府市横根町724-1他
 調査原因 グラウンド造成
 対象面積 6,644m²
 調査面積 26m²
 調査期間 平成8年5月27日～6月4日
 調査担当 佐々木 満

調査の概要

調査対象地は、村内石山遺跡包蔵地範囲の東端に位置し、西側の山の斜面が終わり、平坦に開ける場所である。試掘調査は、南北方向に長い調査区に対して 2m × 2m のグリッドを 6 箇所に設定したが、グリッド 1 は遺構確認のため一部拡張して調査を実施した。

表土層直下は水田層であり、水田造成層除去後は黒色土が確認された。黒色土面の確認でグリッド 1・5 から石蓋の水路が各 1 条検出されたが、水路は排水用の暗渠と考えられ、葡萄畠かあるいは水田開発に伴う暗渠と考えられた。土層堆積状況を確認するため、部分的にサブトレンチを入れたところ、黒色土下層には藻など水生植物で形成された腐葉土層が 50cmほど堆積していることが判明した。結果、近世以降と考えられる暗渠以外に遺構は確認されず、それより下層にはかつて湿地あるいは沼地が形成されていたと考えられる。

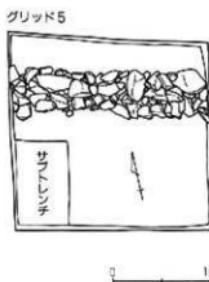
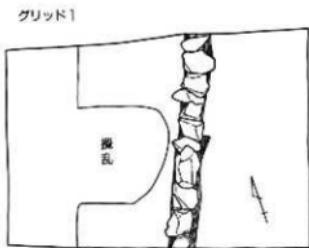


図2 グリッド1・5 全体図

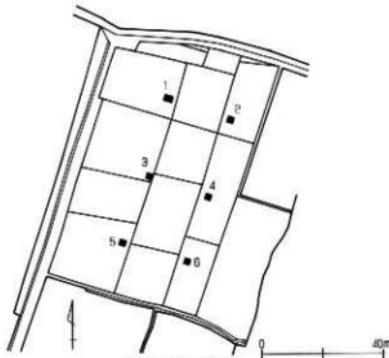
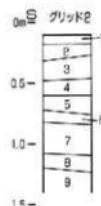


図1 試掘坑配置図



1. 黒色土層
 2. 黒色土層
 3. 黒色土層
 4. 黒色土層
 5. 黒色土層
 6. 黒色土層
 7. 黒色土層
 8. 黒色土層
 9. 黒色土層

27 汗タリ遺跡

調査位置 甲府市下今井町18-1他
調査原因 市民センター建設
対象面積 10,088m²
調査面積 75m²
調査期間 平成8年6月13日～21日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲ではないものの、本市南部市民センター建設に伴う大規模な造成工事であったため、字名から汗タリ遺跡と付して試掘調査を実施した。南北方向に長い敷地に対して、建物予定地についてはL字状のトレンチを設定し、駐車場などその他施設の予定地については2m×3mのグリッドを7箇所設定して調査した。

掘削を進めると、調査区は全体に50～60cm程度盛土造成されていることが判明し、実際の調査は、その下層からとなつた。盛土層直下には旧地表となる水田造成層が確認され、除去後は粗粒砂層が確認された。それ以下はすべて粗粒砂層であり、状況からみて河川氾濫による洪水層と考えられる。粗粒砂層は掘削した調査区すべてにおいて確認され、部分的に深さ約2.5mまで掘削した段階でも変化が見られなかったことから、厚く堆積していることが予測された。よって、本地点には埋蔵文化財はないと判断し、試掘調査を終了した。

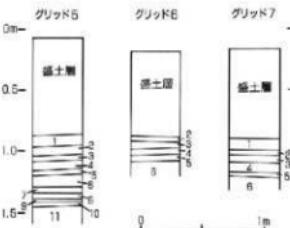
遺物は盛土層からの表探品が多く、水田層以下からは僅かに2点のみであった。掲載したのは全体に亘んでいるが盛土層から出土した銅製の脚付香炉である。年代などは不明である。



図3 出土遺物



図1 トレッヂ配置図



1. 黄褐色土層 一回赤はげあり、砂粒多量混入。
2. 細オーリーブ褐色土層 砂粒多量、炭化物微量混入。水田耕作土層。
3. 黄褐色土層 砂粒多量混入。施肥歴を多く有む。水田耕作土層。
4. 黄褐色土層 砂粒多量混入。水田耕作土層。
5. 黄褐色土層 砂粒多量混入。水田耕作土層。
6. 銅マリーヌ形鉢形土器 砂粒多量、炭化物微量。
7. 灰灰褐色土層 砂粒微量、施肥歴を生むとする。
8. 灰褐色土器
9. 黄褐色耕作土層
10. 黄褐色耕作土層
11. 灰色耕作土層

図2 基本層序

28 銀杏之木遺跡

調査位置 甲府市東光寺二丁目310-1
調査原因 集合住宅建設
対象面積 562.44m²
調査面積 15m²
調査期間 平成8年7月1日～11日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点は、銀杏之木遺跡の包蔵地範囲北端部に位置し、北側には宮裏遺跡が近接する。南北方向に長い敷地に対して2m×2mのグリッドを4箇所設定し、調査を実施した。各グリッドとも土層の堆積状況に変化はなく、地表下約30cmまでは盛土がなされ、その下層から黒色土が確認された。遺構は黄褐色の地山層上で確認されたが、実際には黒色土上から掘り込まれていることが後に確認されている。

検出遺構

グリッド2からは土坑1基、グリッド3からはピット1基、グリッド4からは溝跡が1条検出された。土坑、ピットからの出土遺物はなく年代は不明である。溝跡からは台付甕など古墳時代の遺物が出土したが、掘り込みの位置が上層であることから、近世以降の溝跡と考えられる。溝跡には小蝶が詰め込まれていたことから、人為的に埋め戻されたと考えられ、比較的新しい時期の廃絶と考えられる。

出土遺物

図化できなかったが、土師器や中世の擂鉢などが出土している。

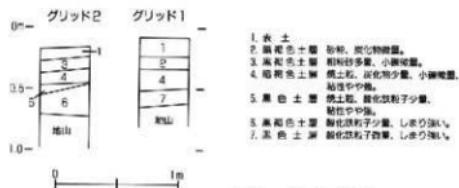


図3 基本層序

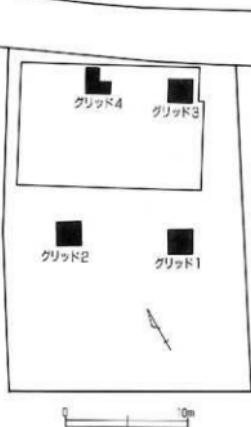
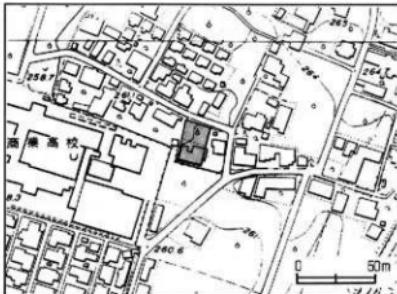


図1 トレンチ配置図

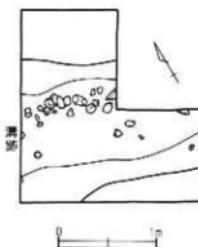


図2 グリッド4

29 金塚西遺跡（第2次）

調査位置 甲府市千塚三丁目地内
調査原因 公園建設
対象面積 21,299.69m²
調査面積 100m²
調査期間 平成8年7月11日～8月26日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

金塚西遺跡は県史跡加牟那塚古墳の西側に隣接する。平成6年度から引き続き実施している千塚公園建設のための確認調査である。

平成8年度は、調査可能な地区を任意に6区画に分け、2×2mの調査グリッドを合計で31箇所設定し調査を行った。調査の結果、1・2区は約30cmの盛土があり、地表下約70cmが遺物包含層となる。3区は最も遺物が集中する調査区である。地表下約40～120cmまで古墳時代前期の土器がまとまって出土した。4区は約30cmの盛土があり、地表下約50cmから遺物包含層となる。5区は約80cmの盛土があり、土器の出土はほとんどなく地表下約120cmで湧水する。6区は地表下約60cmが遺物包含層となり、同時に湧水層となるため調査は困難であった。

全体的には、東側（加牟那塚古墳に近い側）では土器の出土量が少なく、西側に偏って多く出土する傾向が窺えた。そのことから、古墳時代の集落の中心は調査区の西にあったことが想定できる。

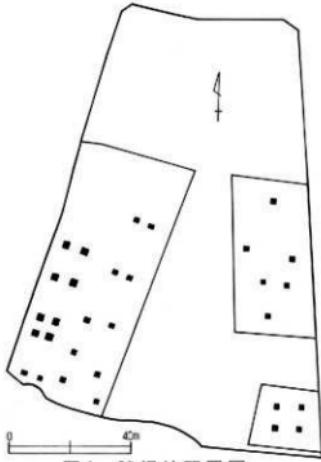


図1 試掘坑配置図

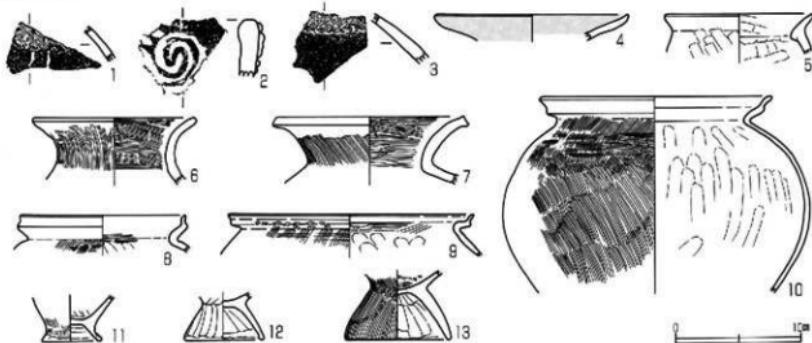


図2 出土遺物

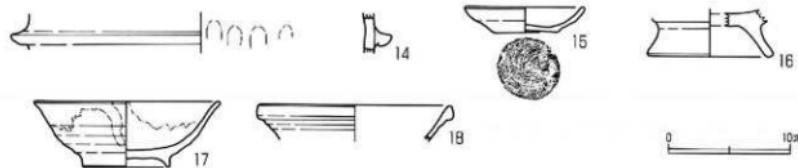


図3 出土遺物

表1 金塚西遺跡（第2次）出土遺物観察表

単位:cm ()は反転実測による復元値

番号	種別	器種	量				調 整	色 調	焼成	備考
			口 � 径	器 高	底 径	壁				
1	土 器		—	—	—	—	すり消し模文	5YR 5/4 鈍い赤褐	良	
2	土 器	深鉢	—	—	—	—		5YR 5/4 鈍い赤褐	良	満帶き縁帯
3	土 器		—	—	—	—	すり消し模文	7.5YR 6/6 橙	良	
4	土 器	器台か	(16.0)	—	—	—	ナデ・ミガキ	7.5YR 4/6 赤	良	内外赤色塗彩
5	土 器	小型甕	(12.0)	—	—	—	ナデ・指頭ナデ・ハケ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
6	土 器	甕	13.2	—	—	—	ミガキ・ハケ	2.5YR 6/8	良	
7	土 器	甕	15.4	—	—	—	ナデ・ミガキ・ハケ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
8	土 器	古付甕	(13.5)	—	—	—	ナデ・ハケ・指頭痕	5YR 4/4 鈍い赤褐	良	S字状口縁部
9	土 器	古付甕	(20.0)	—	—	—	ナデ・ハケ・指頭痕	5YR 5/6 明赤褐	良	S字状口縁部
10	土 器	古付甕	18.6	—	—	—	ナデ・指頭ナデ・ハケ	7.5YR 6/6 橙	良	S字状口縁部
11	土 器	古付甕	—	—	4.8	—	ナデ・ハケ	5YR 4/4 赤褐	良	
12	土 器	古付甕	—	—	6.8	—	ケズリ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
13	土 器	古付甕	—	—	(8.4)	—	ケズリ・ハケ	5YR 6/4 鈍い橙	良	
14	土 器	羽釜	—	—	(31.0)	—	ナデ・指頭痕	7.5YR 5/3 鈍い褐	良	
15	土 器	かわらけ	9.7	2.1	5.0	—	ロクロナデ	5YR 5/4 鈍い赤褐	良	
16	土 器	脚高高台	—	—	(10.4)	—	ロクロナデ	5YR 5/4 鈍い赤褐	良	
17	灰釉陶器	甕	(15.0)	(5.4)	(7.2)	—	N 7/7 灰白	良		
18	白 磁	甕	(16.0)	—	—	—	ロクロナデ	7.5YR 7/1 灰白	良	

30 砂間遺跡

調査位置 甲府市高室町国母工業団地162

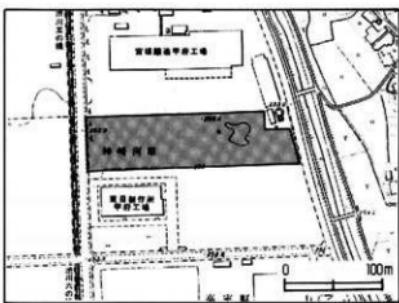
調査原因 工場増築

対象面積 455.49m²

調査面積 6 m²

調査期間 平成8年7月15日～17日

調査担当 佐々木 満



調査の概要

調査対象地は、砂間遺跡の包蔵地範囲北西隅に位置するが、調査前から立地や周囲の確認状況からみて遺跡の密度は薄いものと予測された。工場本体は稼動中で業務に支障のないように配慮するとともに地下埋設の配管などを損傷しないよう調査は最低限での確認となつた。2m×2mのグリッドを建物予定地の東西両端に設定し、調査を実施したが、東側では配管の関係で最終的に2m×1mの掘削に止めた。

アスファルトと碎石の層を除去したところで畑の耕作土と考えられる土層が約40cm確認

されたが、その下層は砂層が何層にも堆積していた。粗粒砂と細粒砂が相互に堆積しており、河川氾濫によるものと考えられる。おそらく現在本地区東側を流れている鎌田川の洪水によるものと考えられる。遺構・遺物なども確認されず、本地点では遺跡は確認されなかった。

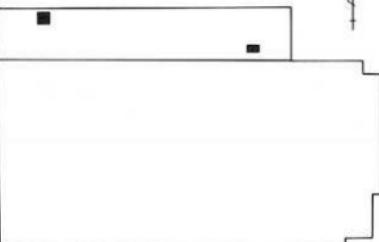


図1 試振坑配置図

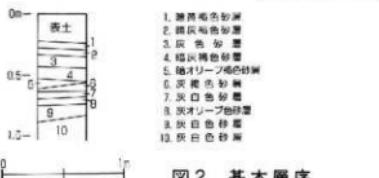


図2 基本層序

31 梶田遺跡（第2次）

調査位置 甲府市千塚五丁目2805-4・5他
 調査原因 集合住宅建設
 対象面積 504m²
 調査面積 45.7m²
 調査期間 平成8年7月25日～8月20日
 調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点は、梶田遺跡包蔵地範囲の東端に位置し、近隣には金塚西遺跡、天神西遺跡など時期的に併行する遺跡群が点在する。調査区は、当初 2 m × 2 m のグリッドを 3箇所設定して調査したが、2箇所のグリッドで遺構が検出されたため、その後 3つのグリッドを接合し、T字状のトレンチで全体の確認を実施した。基本的に全体的に水田造成層が地表下約40cmまで形成されており、遺構はその直下の安定した砂質土上で確認している。

検出遺構

調査区全体で溝跡 9条、竪穴建物 1棟、ピット 2基、土坑 1基などを検出したが、溝跡の多くは覆土に粗粒砂層を含んでおり、洪水による埋没であると考えられる。調査段階では溝跡が重複して確認されたが、3号溝と9号溝、あるいは5号溝と6号溝などは洪水の際の流路である可能性もある。しかし、確認段階では遺構の発見が前後したこともあり、別遺構として番号を付し調査した。溝跡は、出土遺物の年代では13世紀初頭から13世紀後半と考えられる。

トレント北側では竪穴建物跡が 1棟確認され、一部調査区を拡大して掘削した。床面に



は炭化物などが散布し、調査区北壁際で竈か炉と考えられる焼土塊の集中箇所が確認された。建物内にはピット 2 があるが、規模と位置からみて竪穴建物跡の柱穴であるかは定かではない。時期的には 6 世紀後半と考えられる。

出土遺物

溝跡からは灰釉陶器、常滑甕、華南白磁、龍泉・同安窯青磁などの陶磁器と、外耳鏡、手づくねかわらけなどの土器類が出土している。竪穴建物跡からは土師器・須恵器の蓋、甕などが出土している。他にも調査区内で 16 世紀後半の青花皿が出土するなど幅広い時期の遺物が出土している。

まとめ

全体的に 6 世紀代と 13 世紀代の遺構・遺物がまとまって出土している。13 世紀代の遺構・遺物については、当該地域から甲斐市東部に展開したと推定される志摩荘との関連を考える上で貴重な調査事例となった。

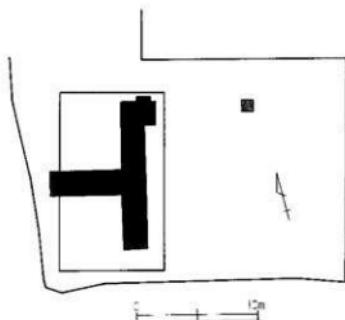
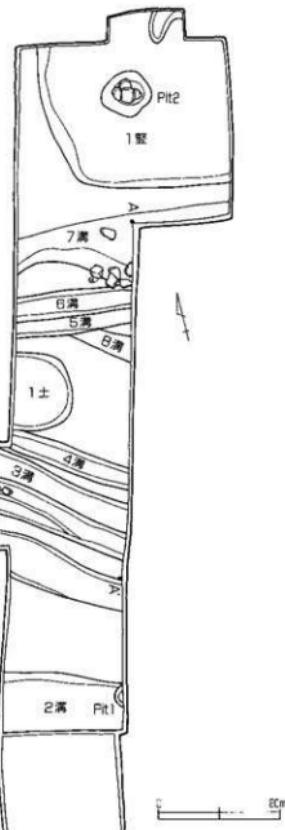


図1 トレンチ配置図



A	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1. 黒土	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
2. 黒灰土層 (水三被付上層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
3. 灰褐色土層 (水三被付中層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
4. 黑褐色土層 (水三被付下層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
5. 灰褐色砂質土層	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
6. 深褐色砂質土層	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
7. 深褐色粘土層	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
8. 灰褐色砂質土層	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
9. 灰褐色粘土層	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
10. 黑褐色砂質土層	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
11. 黑褐色粘土層	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
12. 黑褐色砂質土層	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
13. 黑褐色砂質土層 (1号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
14. 黑褐色砂質土層 (2号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
15. 黑褐色砂質土層 (3号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
16. 黑褐色砂質土層 (4号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
17. 黑褐色砂質土層 (5号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
18. 黑褐色砂質土層 (6号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
19. 黑褐色砂質土層 (7号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
20. 黑褐色砂質土層 (8号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
21. 黑褐色砂質土層 (9号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
22. 黑褐色砂質土層 (10号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
23. 黑褐色砂質土層 (11号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
24. 黑褐色砂質土層 (12号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7
25. 黑褐色砂質土層 (13号層)	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7

図2 調査区全体図・東壁セクション

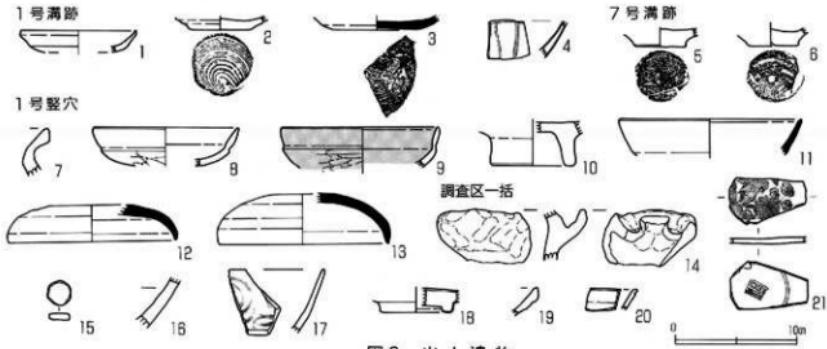


図3 出土遺物

表1 櫻田遺跡(第2次)出土遺物観察表

単位: cm ()は反転実測による後寸

番号	種別	器種	口径	器高	底径	調整	色調	焼成	備考
1	土器	壺	(9.4)	—	—	ナデ	5YR 5/4 銀い赤褐色	良	手づくり
2	土器	環	—	—	(5.0)	ロクロナデ	5YR 6/6 稲	良	
3	須恵器	環	—	—	(7.0)	ロクロナデ	N 4/ 灰白	良	
4	青磁	碗	—	—	—	蓮弁文	N 8/ 灰	良	青磁碗II類
5	土器	環	—	—	(4.3)	ナデ	5YR 4/1 灰灰	良	スヌベ音
6	土器	環	—	—	(4.0)	ナデ	5YR 4/6 灰褐	良	
7	土器	甕か壺	—	—	—	ナデ	7.5YR 6/4 銀い銀	良	
8	土器	環	(12.0)	—	—	ナデ・ケズリ	5YR 6/6 稲	良	
9	土器	環	(12.8)	—	—	ナデ・ケズリ	7.5YR 4/4 銀い赤	良	赤色塵彩
10	土器	環	—	—	(7.0)	ロクロナデ	7.5YR 7/4 銀い赤	良	
11	須恵器	環	(16.0)	—	—	ロクロナデ	5Y 6/1 灰	良	
12	須恵器	壺	(13.8)	(3.0)	(7.0)	ロクロナデ	2.5Y 6/1 黄灰	良	
13	須恵器	壺	(14.0)	(4.1)	(5.2)	ナデ	2.5Y 7/1 灰白	良	
14	土器	鍋	—	—	—	掛頭整形	7.5YR 6/6 稲	良	外耳綱
15	土製品	凹盤	1.9	0.4	1.9	ヘラ	SYR 6/6 稲	良	
16	陶器	片口鉢	—	—	—	ナデ	10YR 7/1 灰白	良	常滑か
17	青磁	碗	—	—	—	—	N 7/ 灰白	良	青磁碗I-2b類
18	青磁	碗	—	—	(6.0)	—	5Y 7/1 灰白	良	青磁碗I類か
19	白磁	碗	—	—	—	—	—	良	白磁碗IV類
20	白磁	碗	—	—	—	—	—	良	白磁碗V類
21	磁器	壺	—	—	—	—	—	良	青花



写真1 北側全景



写真2 1号竖穴セクション

32 幸町A遺跡

調査位置 甲府市幸町2785他 4筆

調査原因 マンション建設

対象面積 2,331.36m²

調査面積 48m²

調査期間 平成8年8月29日～9月20日

調査担当 佐々木 満

調査の概要

幸町A遺跡は、昭和54年道路工事の際、本県では確認例が少ない弥生中期の土器が採取されたことから包蔵地として周知されてきた遺跡であるが、包蔵地の範囲の指定が狹かつたこともあり、当初本地点は包蔵地範囲の隣接地であった。幸町A遺跡の実態の把握と範囲確認を目的として開発直前に調査協力いただき、試掘調査を実施した。調査当初は基本土層と分布確認のために2m×2mのグリッドを3箇所設定して調査したが、厚い盛土層の除去後水田耕作土などが確認された。水田造成層掘削後1箇所のグリッドで遺構が検出されたため周囲をT字状に拡張し、トレンチ調査を実施した。

検出遺構

調査区全体で溝跡10条、竪穴建物1棟、ピット7基、土坑3基などを検出した。溝跡は10号溝跡を除き、深さ10cmから20cm前後の浅い掘り込みであり、水が流れたような痕跡は確認できなかった。軸線は東西に同一方向で2条が併行する位置関係にあることから烟などの畠の可能性も考えられる。

溝跡の下層には竪穴建物跡や土坑などが検出されたが、調査期間の制限などから調査区を拡張するなどして全体を確認することはできなかったため、正確な規模などは不明である。竪穴建物跡からはピット3基が確認されたが、明確な炉跡などは検出されなかった。

出土遺物

竪穴建物跡からは壺・甕類が出土しているが、全体として数は少ない。図化した遺物では、10号溝跡から小型壺や甕など比較的まとまった遺物が出土している。時期的には弥生後期の遺物群と考えられる。

まとめ

この調査によって包蔵地外であった本地点まで遺跡が展開することが明らかとなり、幸町A遺跡の包蔵地範囲が少なくとも南へ広がることは確実と判断し、以後包蔵地範囲を改定している。調査成果から本地点の状況を判断すると、竪穴建物跡が埋没後、畠として耕作地化したと解釈できる。年代的にも出土遺物から弥生後期と考えられるため、盆地底部の様相を知る上で貴重な成果となった。

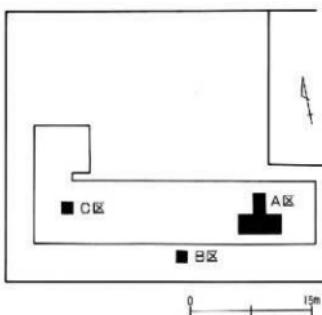
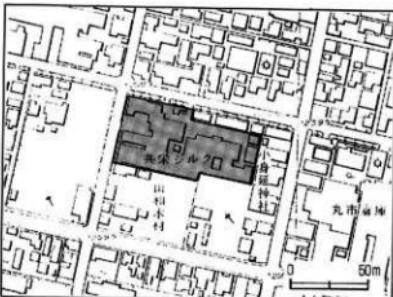
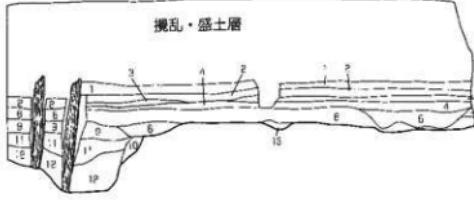
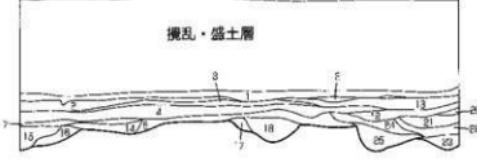


図1 試掘坑配置図

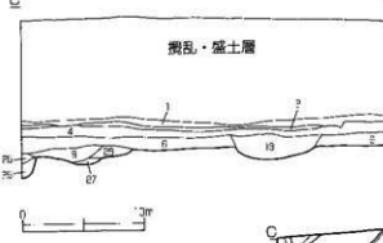
A A区東壁



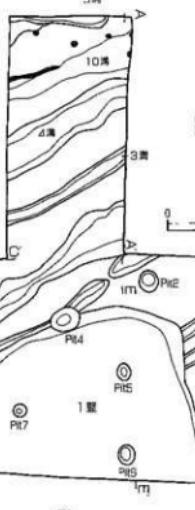
B



A区北壁



C'



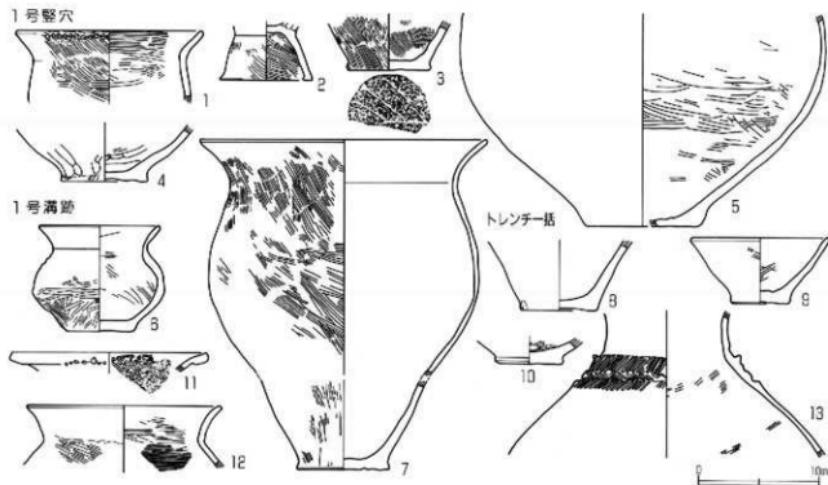


図3 出土遺物

表1 幸町A遺跡出土遺物観察表

単位: cm ()は反転火焔による復元値

番号	種別	器種	法			調	色	焼成	備考
			径	高	底				
1	土器	甕	(15.0)	—	—	ハケ	10YR 8/4 浅黄棕	良	
2	土器	台付甕	—	—	(7.4)	ハケ	10YR 8/3 浅黄棕	良	
3	土器	甕	—	—	(6.6)	ハケ	10YR 6/6 明黄褐	良	木葉底
4	土器	甕	—	—	7.0	ケズリ	10YR 4/6 棕	良	
5	土器	甕	—	—	(9.0)	ハケ	7.5YR 7/8 黄棕	良	
6	土器	小甕	9.8	8.7	5.4	ハケ・ケズリ	10YR 8/4 浅黄棕	良	
7	土器	甕	(23.4)	—	(7.4)	ハケ	10YR 6/4 純い黄棕	良	
8	土器	甕	—	—	6.2		10YR 6/4 純い黄棕	良	
9	土器	鉢	(11.0)	5.4	4.2	ハケ	10YR 4/6 棕	良	
10	土器	甕	—	—	(4.6)	ケズリ	10YR 7/4 純い黄棕	良	
11	土器	甕	(14.4)	—	—	ナデ・縄目文様	5YR 6/8 棕	良	折り返し口縁
12	土器	甕	(13.6)	—	—	ハケ	5YR 7/4 純い棕	良	
13	土器	甕	—	—	—	ナデ・ミガキ・ハケ	10YR 6/6 明黄褐	良	ボタン状貼付文

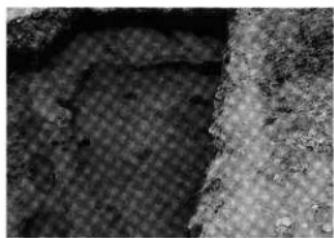


写真1 1号竪穴

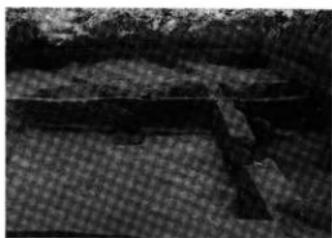


写真2 1号竪穴南北ベルトセクション

33 地藏北遺跡

調査位置 甲府市東光寺三丁目1713他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 1,211m²
調査面積 12m²
調査期間 平成8年9月6日～17日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

地藏北遺跡が所在する里垣地区は、甲斐善光寺や東光寺を始めとする中世まで遡る寺院が点在する。また『古事記』『日本書紀』に登場する酒折宮や古墳が多数確認され、遺跡・史跡が集中して見られる地域である。

調査区に 2×2 mの調査グリッドを3箇所設定し東からグリッド1, 2, 3とし調査を行った。調査の結果、グリッド1から直径約130cmの土坑が確認でき、その底に長径20cmほどの石と須恵器片が確認できた。また、近代の染付も出土した。グリッド2, 3は表土直下から自然堆積層が確認できた。

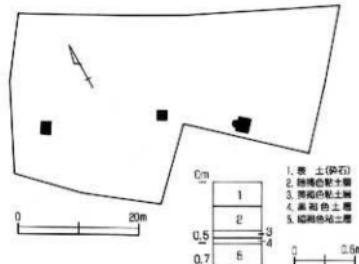


図1 試掘坑配置図

図2 基本層序

34 酒折遺跡

調査位置 甲府市酒折三丁目1283-1, 1281-1, 1271-1, 1271-2
調査原因 運動場造成
対象面積 5,605m²
調査面積 8m²
調査期間 平成8年9月18日～19日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

酒折遺跡は八人山の南麓に位置する。酒折宮は、現在地よりも北の舌状に張り出した尾根筋に在ったとされる。

調査は 2×2 mの調査グリッドを2箇所設定し、行った。地表からそれぞれ60cm程度掘削し、自然堆積層となることを確認した。遺構は検出できなかった。出土遺物は縄文土器、黒曜石、土師器の小片が出土した。

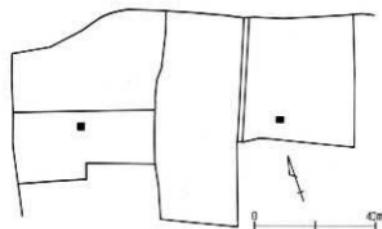
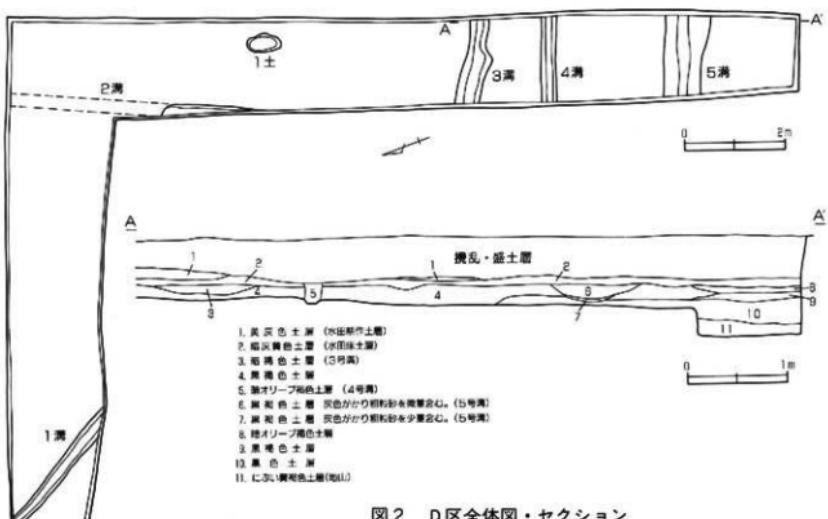
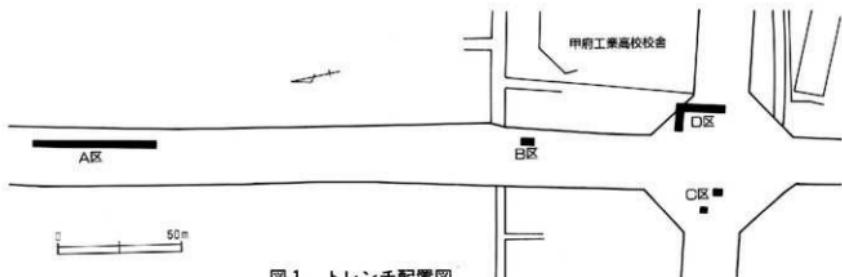
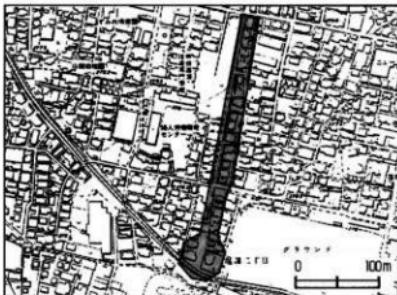


図1 試掘坑配置図

35 塩部遺跡（第4次）

調査位置 甲府市塩部二・三丁目地内
 調査原因 道路改良工事
 対象面積 7,000m²
 調査面積 146m²
 調査期間 平成8年10月1日～17日
 調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点の南側は、山梨県埋蔵文化財センターで本調査を実施した甲府工業高校校舎地点の西側に位置する。南北方向に細長い調査対象区内を大きく4箇所に分けて調査をした。

A区とした北側の調査区では表土掘削後すぐに地山面が検出され、遺構などは検出されなかった。A区からB区までの間は住宅などが移転前であったため未調査としたが、B区でも灰釉陶器が2点出土したのみであり、遺構などは確認されなかつことから、密度は極めて薄いと考えられる。

C・D区については、県調査区の隣接地であり最も遺構・遺物が検出される可能性が高いと考えられた。D区からは若干の遺物とともに溝跡4条と土坑1基が検出されたが、3~5号溝跡は近世以降の水田に関わる水路と考えられる。1・2号溝跡と1号土坑は、覆土の様相から弥生から古墳時代の遺構と考えられるが、遺物の出土もなく、時期決定の決め手を欠いた。

周辺は解体された住宅基礎などの擾乱も多く、残存状況も極めて悪いことが予測され、かつ遺構・遺物の密度が薄かったことから試掘調査で確認を終了とした。

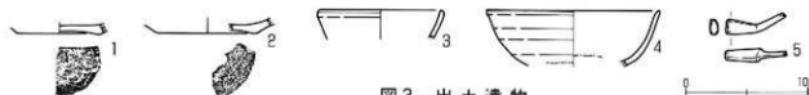


図3 出土遺物

表1 塩部遺跡（第4次）出土遺物観察表

単位: cm ()は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法 目 径 高 底 径			測 定	色 調	焼成	備 考
			(mm)	(mm)	(mm)				
1	土器	壺	—	—	(6.6)	ロクロ	7.5YR 7/4 銀い緑	良	
2	土器	壺	—	—	(8.0)	ロクロ	10YR 7/4 銀い黄緑	良	
3	灰釉陶器	碗	(9.0)	—	—	ロクロ	N 5/ 灰	良	二次被熱
4	灰釉陶器	碗	(14.0)	—	—	ロクロ	2.5Y 7/2 灰黄	良	
5	金属製品	煙管						良	

36 天神西遺跡（第1次）

調査位置 甲府市千塚四丁目3331、3332、

3541、3541-1、3542

調査原因 個人住宅建設

対象面積 558.07m²

調査面積 12m²

調査期間 平成8年10月2日~15日

調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査地は荒川の左岸、現在の流路との距離はわずかに10mしか離れていない。調査地に2×2mの調査グリッドを3箇所設定し（東より1, 2, 3とした）、試掘調査を行った。

調査の結果、1グリッドは地表下40cmから遺物が出土し始め、地表下100cmで土坑が確認できた。3グリッドでは地表下60cmで3段に掘り込まれた土坑が検出できた。出土遺物に、土師質土器片、古銭（元豊通宝）がある。

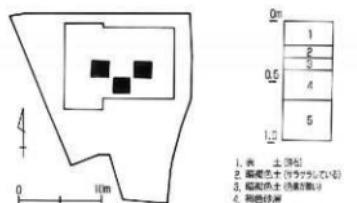
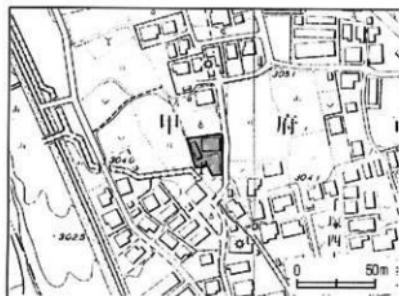


図1 試堀坑配置図

図2 基本層序

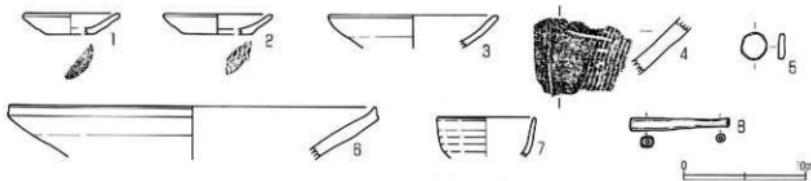


図3 出土遺物

表1 天神西遺跡出土遺物観察表

単位:cm ()は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法 量			調 整	色 調	焼 成	備 考
			口 径	器 高	底 径				
1	土器	平	(8.0)	(1.7)	(4.0)	ナデ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
2	土器	平	(9.0)	(1.7)	(6.0)	ナデ	5YR 6/6 橙	良	
3	土器	平	(14.0)	—	—	ナデ	7.5YR 7/4 鈍い橙	良	
4	土器	擂鉢	—	—	—	ナデ	7.5YR 7/4 鈍い橙	良	
5	土製品	—	—	—	ナテ・ヘラ	5YR 7/4 鈍い橙	良		
6	土器	擂鉢	(30.0)	—	—	ロクロナデ	5YR 6/6 橙	良	
7	陶器	瓶	(8.0)	—	—	ロクロ	5Y 7/3 浅黄	良	
8	金属製品	鍔管	—	—	—				

37 榎田遺跡（第3次）

調査位置 甲府市千塚五丁目2926-1

調査原因 宅地造成

対象面積 1,821.95m²

調査面積 320m²

調査期間 平成8年10月21日～

平成9年1月29日

調査担当 平塚洋一

調査の概要

今回の調査地点は、平成4年に県埋蔵文化センターが発掘調査を実施し、弥生時代から平安時代にかけての大規模集落跡や方形周溝墓群が確認された地点の、道路を挟んで東側にあたる。

造成計画で道路が建設される場所に、2m幅の試掘トレンチをそれぞれ設定し調査を実施した。その結果、弥生時代から平安時代にかけての土器が多量に出土した。そのため、新規に造成される幅6×25mの道路部分について全面を発掘調査の対象とし、宅地部分については個別に試掘調査で対応することとした。

建設される2条の道路のうち、北側の道路をトレンチ1、南側の道路をトレンチ2とした。さらにトレンチ1の東側に1段低く飛び出た区画をトレンチ3として調査を実施した。

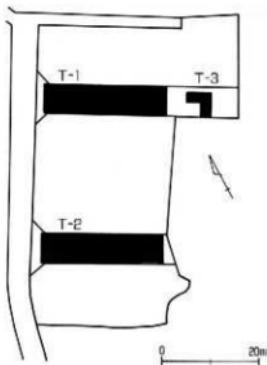


図1 トレンチ配置図

トレンチ 1 (上層)

地表から約70cmの深さで遺物がやや多く出土したため、精査を実施し遺構確認を行った。トレンチ東側に直径2mを超える巨石が集中し、その周囲に南北方向に延長方向を持つ溝跡が4条検出できた。

トレンチ 1 (下層)

地表から約100cmの深さで精査し、遺構確認できたものをトレンチ1下層として区分し以下のとおり報告する。トレンチ1下層からは3軒の竪穴住居跡、1条の溝跡が検出された。

1号竪穴 (位置) トレンチ1北西。3号・11号・12号竪穴と重複する。(主軸) カマドそのものは確認できていないが、北カマドと想定すると西壁方向からN-22°-W。(形状・規模) 他の竪穴と重複し、また調査区域外に拡大するため、全体像は不明である。(床) 明確な硬化面はなかった。掘り上がった状態は掘り方面と考えておきたい。(カマド) 確認できなかった。(壁) 西壁は比較的良好に検出されたが、南壁の残存状況は不良である。また東・北壁については他遺構との重複や調査区外にあたるため検出できなかった。

3号竪穴 (位置) トレンチ1北西。1号竪穴・11号竪穴と重複する。W-40°-N。(形状・規模) 他の竪穴と重複し、また調査区域外に拡大するため、全体像は不明である。(床) 明確な硬化面はなかった。しかし、黄褐色の粘土が貼られた状態で確認できたため、これを床面として考えたい。(カマド) 約90cmの円形の掘り方をもつ。向かって左に4石(外側にもう1石)、右に3石を配す。奥に円筒形土器を横位置に配す。(壁) 残存状況が悪く不明瞭だった。

11号竪穴 (位置) トレンチ1西端。1号竪穴・3号竪穴と重複する。(主軸) わずかに残る南壁からN-22°-Wと推測される。(形状・規模) 他の竪穴と重複し、また調査区外に拡大するため、全体像は不明である。(床) 明確な硬化面はなかった。(カマド) 確認できなかった。(壁) 南壁の一部がやや残りが良かった。

12号竪穴 (位置) トレンチ1。1号竪穴と重複する。調査区の北壁断面で確認したもので、1号竪穴に重複してしまい、断面での確認となった。

トレンチ2 (上層)

遺物がやや多く出土した地表から約60cmの深さで、精査を実施し遺構確認を行った。80基以上のピット群が確認できた。しかし、ピット群に規則性は看取できなかった。

トレンチ2 (下層)

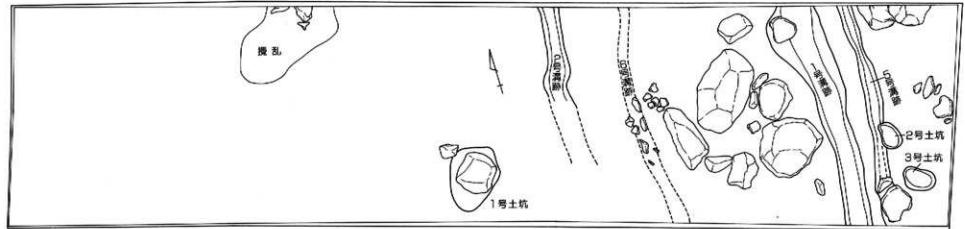
地表から約100cmの深さで精査し、遺構確認できたものをトレンチ2下層として区分し以下のとおり報告する。

2号竪穴 (位置) トレンチ2南西。(主軸) 比較的残存状況の良かった東壁から、N-11°-E。(形状・規模) 残存状況が不良であるが、隅丸方形を呈することを想定している。

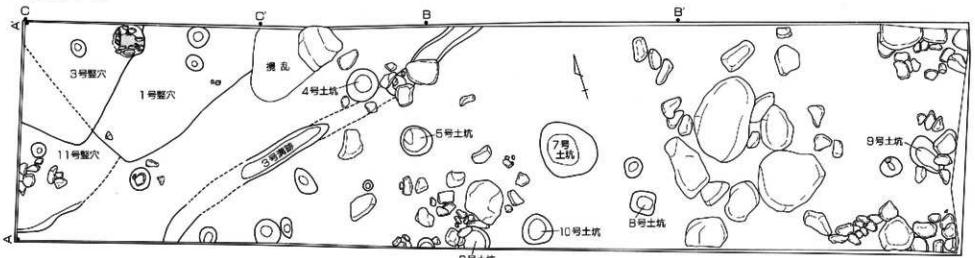
(床) 明確な硬化面はなかった。しかし部分的に白色の粘土を意図的に貼り付けた箇所が確認できたため、この面を床面として考えたい。(カマド) 確認できなかった。(壁) 東壁のみ比較的良好に残存する。(出土遺物) 10世紀前半に位置づけられる土器を中心に出土している。3は墨書き土器。横に二本、縦に三本を線引きする。ドーマンを模したもので、祭祀に用いたものであろう。トレンチ出土のものであるが70は同様の黒書きを持つものであろう。8は置きカマドの破片である。

4号竪穴 (位置) トレンチ2ほぼ中央に位置する。5号・6号・10号・13号竪穴と重複する。(主軸) N-5°-W。(形状・規模) 比較的残存状況の良好な北辺から、隅丸方形を呈することを想定している。東西約7mの規模を測る。(床) 明確な硬化面はなかった。(カマド) 今回確認されたカマドのなかで最大規模を誇る石組みカマドである。4号竪穴の北辺のほぼ中央に位置する。南北約2.5m、東西約2mを測る。向かって左に7石、右に6石

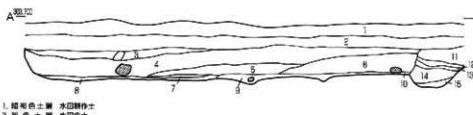
トレンチ1 上層



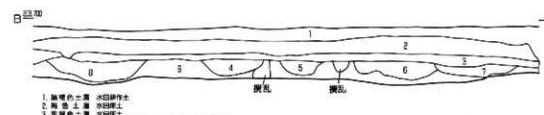
トレンチ1 下層



トレント1 下層西壁



トレント1 下層北壁



5. 頭痛 気管炎や風邪などの感染症による頭痛。発熱はなく、しりが痛む。
6. 胃痛 気管炎や風邪などの感染症による胃痛。発熱はなく、しりが痛む。
7. 腹痛 気管炎や風邪などの感染症による腹痛。発熱はなく、しりが痛む。
8. 肝臓病 肝臓の病気。発熱はなく、しりが痛む。
9. 肾臓病 肾臓の病気。発熱はなく、しりが痛む。
10. 脊椎病 脊椎の病気。発熱はなく、しりが痛む。
11. 骨折 痛む骨を骨折したときの痛み。発熱はなく、しりが痛む。
12. ダイアリーピンク 痛む骨を骨折したときの痛み。発熱はなく、しりが痛む。(S骨質軟化)
13. 骨筋肉炎 痛む骨を骨折したときの痛み。発熱はなく、しりが痛む。
14. 骨膜炎 痛む骨を骨折したときの痛み。発熱はなく、しりが痛む。
15. 骨髄炎 痛む骨を骨折したときの痛み。発熱はなく、しりが痛む。

トレンチ 3

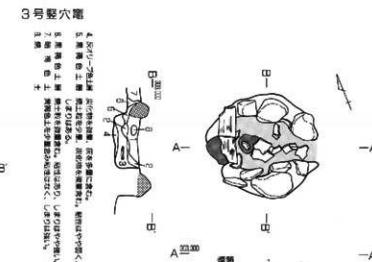
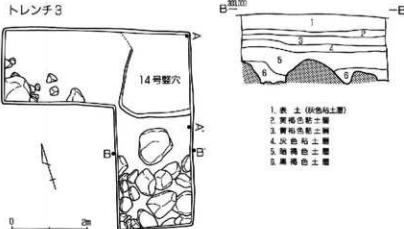
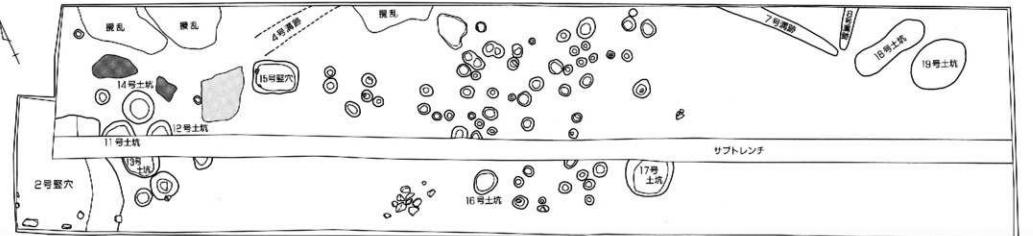
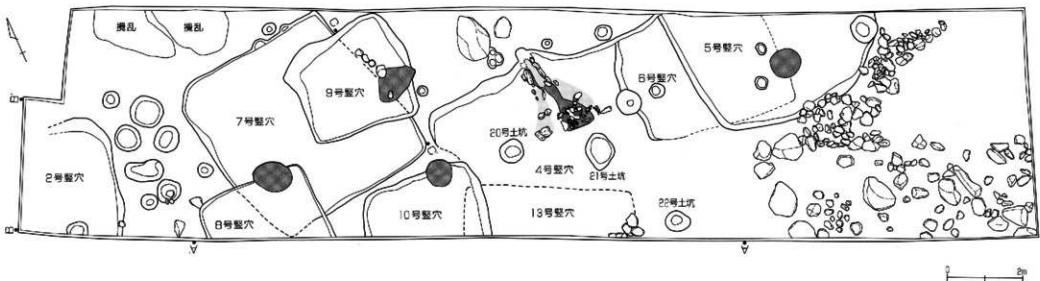


図2 トレンチ1・3 全体図・セクション、3号竪穴竈

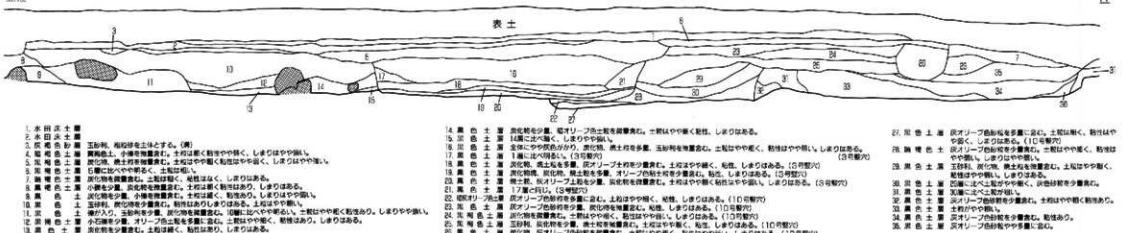
トレンチ2 上層



トレンチ2 下層



A_{m,n}



4号竖穴墓

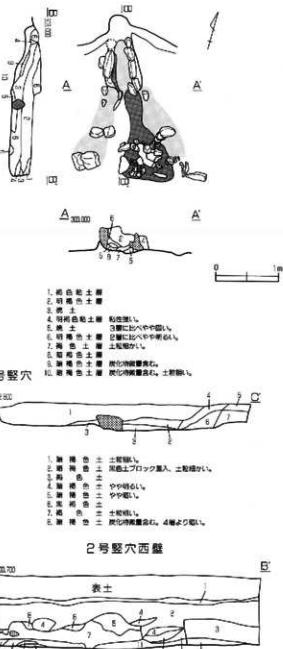


図3 トレンチ2 全体図・セクション・4号竪穴竈

が残る。カマド石の抜き取り痕もあるため、片側に10石程度組んだものと推測される。(出土遺物) 古墳時代後期に位置づけられる土器群が出土している。また1点であるが瓦片も出土している。

5号竪穴 (位置) トレンチ2中央やや東よりに位置する。4号・6号竪穴と重複する。
(主軸) N-6°-W。(形状・規模) 北辺は調査区外にあたり、南・東も残存状況はあまり良くない。南辺は最大で約5mを計測する。(床) 明確な硬化面はなかった。掘り上がった状態は掘り方面と考えておきたい。(カマド) 石組みカマドであり、5号竪穴の南辺に確認された。

6号竪穴 (位置) トレンチ2中央やや東寄りに位置する。4号・5号竪穴と重複する。
(主軸) N-2°-W。(形状・規模) 他構造との重複により残存状況は良くない。(床) 明確な硬化面はなかった。掘り上がった状態は掘り方面と考えておきたい。(カマド) 東辺に確認された。

7号竪穴 (位置) トレンチ2中央やや西よりに位置する。8号・9号竪穴と重複する。
(主軸) N-10°-W。(形状・規模) 東西・南北約4.5mの正方形を呈する。(床) 明確な硬化面はなかった。(カマド) 東辺に東西70cm、南北120cmの掘り方を持つ。(壁) 北壁は比較的良好に残り、30cmほどの立ち上がりが確認できた。

8号竪穴 (位置) トレンチ2中央やや西よりに位置する。7号竪穴と重複する。(主軸) N-2°-E。(形状・規模) 南半分は調査区外に拡大する。東西約3mを測り、方形を基調とする。(床) 明確な硬化面はなかった。(カマド) 北辺のやや東寄りに確認できた。粘土で構築され、中央に支脚石を持つ。

9号竪穴 (位置) トレンチ2中央やや西よりに位置する。7号竪穴と重複する。(主軸) N-5°-E。(形状・規模) 東西約3m南北2~2.7mの不整な方形を呈する。(床) 明確な硬化面はなかった。(カマド) まとまった焼土は確認できなかった。(壁) 西壁および南壁で約10cmの立ち上がりが確認できた。

10号竪穴 (位置) トレンチ2ほぼ中央に位置する。4号・13号竪穴と重複する。(主軸) N-8°-E。(形状・規模) 南側は調査区外に拡大するため全体像は不明である。北辺は約3mを計測する。方形を基調とするものと考えておきたい。

13号竪穴 (位置) トレンチ2ほぼ中央に位置する。10号竪穴と重複する。調査区の北壁断面での確認となった。

トレンチ3

地表から約80cmの深さで精査し、遺構確認を行った。

14号竪穴 (位置) トレンチ3北東。(主軸) N-22°-E。(形状・規模) 北側、東側それぞれが調査区外に拡大するため、全体像は不明である。方形を基調とするものと考えたい。(床) 明確な硬化面はなかった。(カマド) 調査区内にまとまった焼土は確認できなかった。(壁) 西壁で約30cm、南壁で約15cmの立ち上がりが確認できた。

ま と め

今回の調査により古墳時代から平安時代にかけての集落が広く展開していたことが確認でき、また弥生時代から平安時代にかけて非常に多くの遺物が出土したことは大きな成果である。



トレンチ 1 全景



1号・3号 竪穴



2号 竪穴 遺物 出土 状況



3号 竪穴 カマド



4号 竪穴 カマド



4号 竪穴 カマド 右袖 遺物 出土 状況

榎田遺跡（第3次） 調査写真（1）



4号竪穴完掘



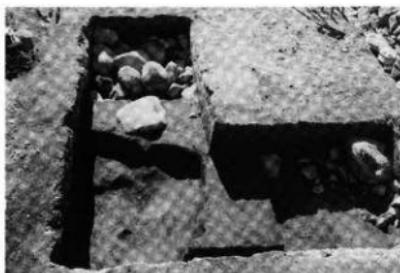
トレンチ2全景



8号竪穴カマド



10号竪穴カマド



トレンチ3全景



14号竪穴遺物出土状況

榎田遺跡（第3次） 調査写真（2）

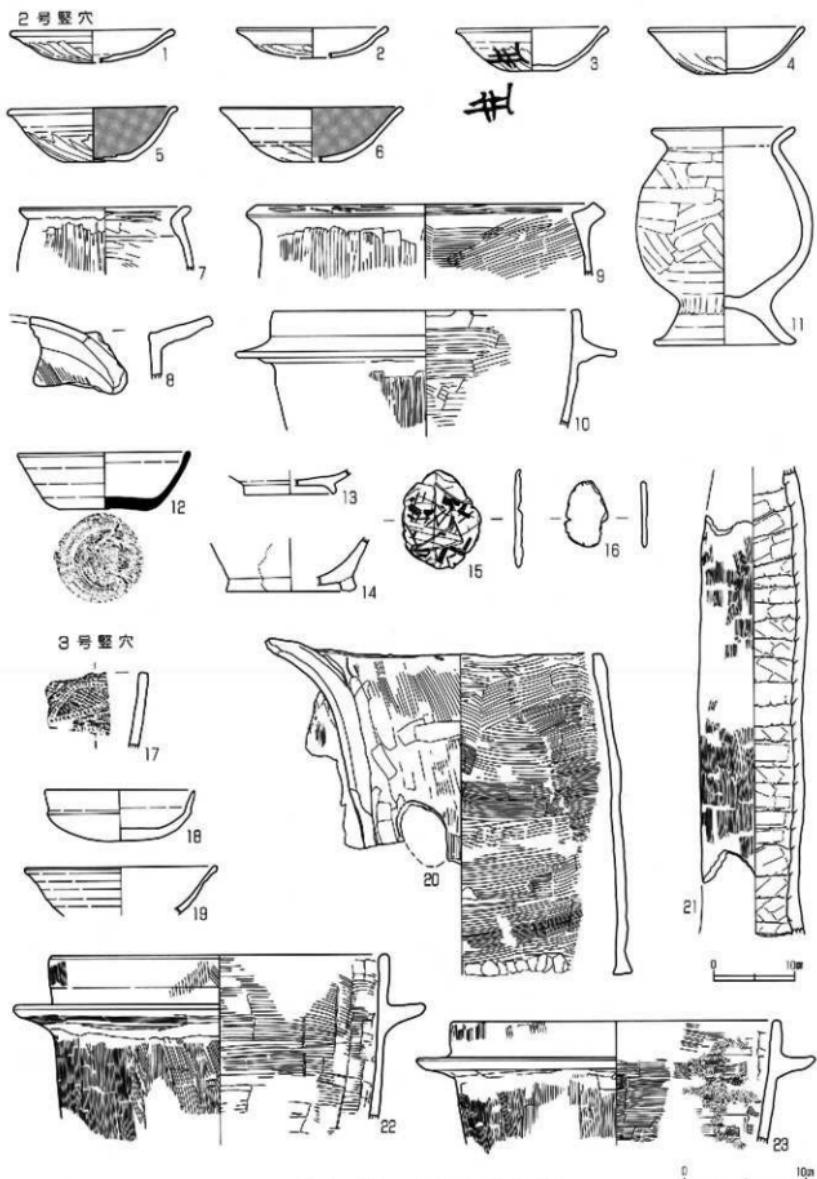


図4 2号・3号竖穴出土遺物

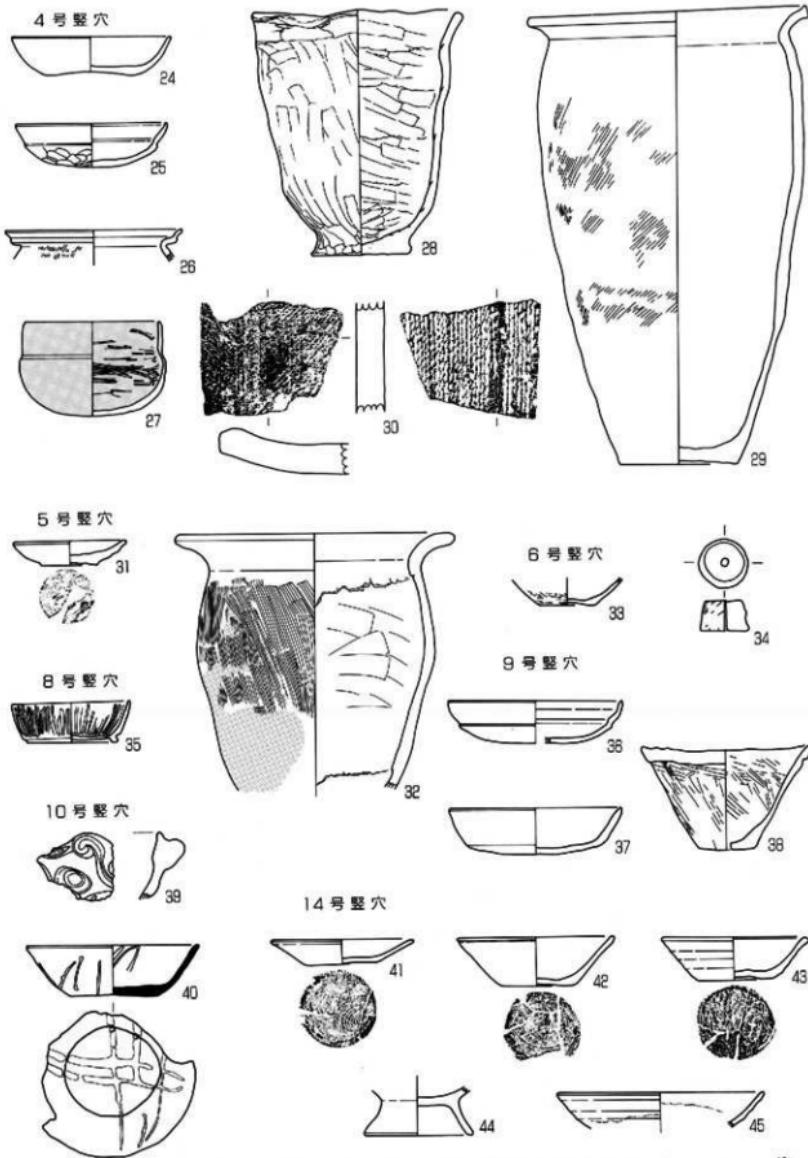


図5 4号～6号・8号～10号・14号 竖穴出土遺物

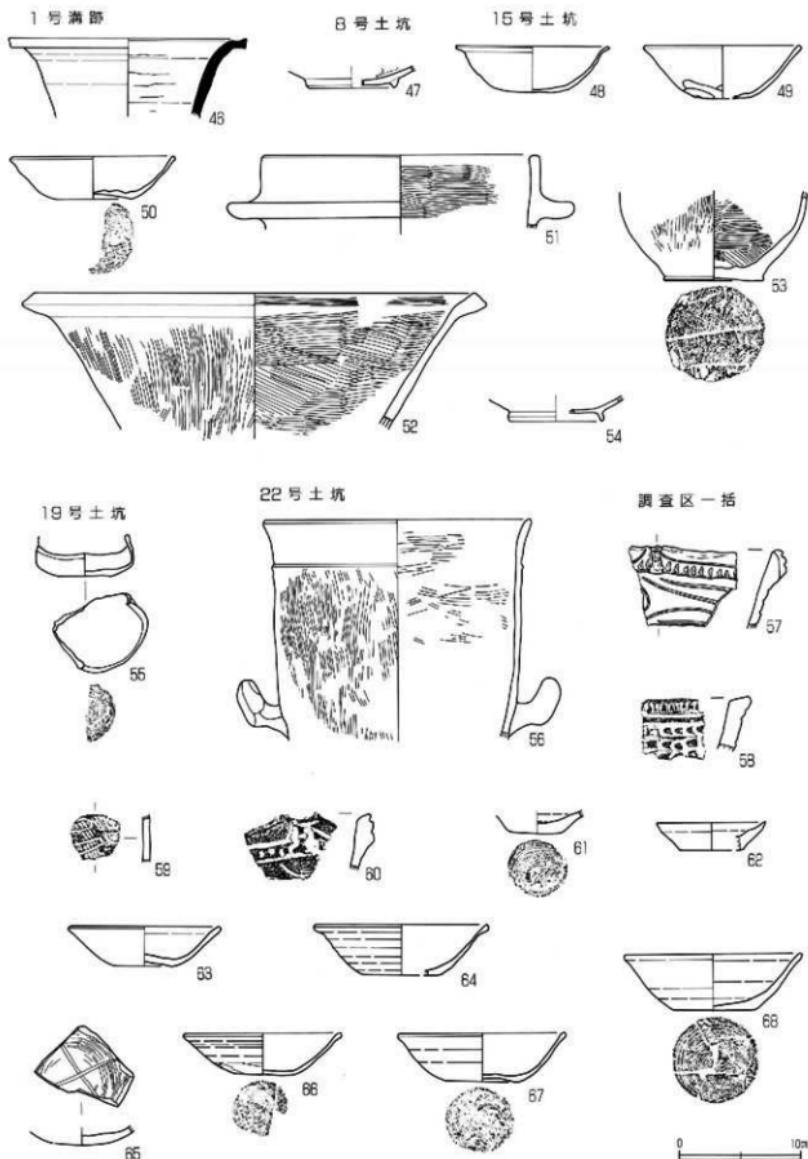


图 6 1号溝跡、8号・15号・22号土坑出土遺物、調査区一括出土遺物(1)

調査区一括

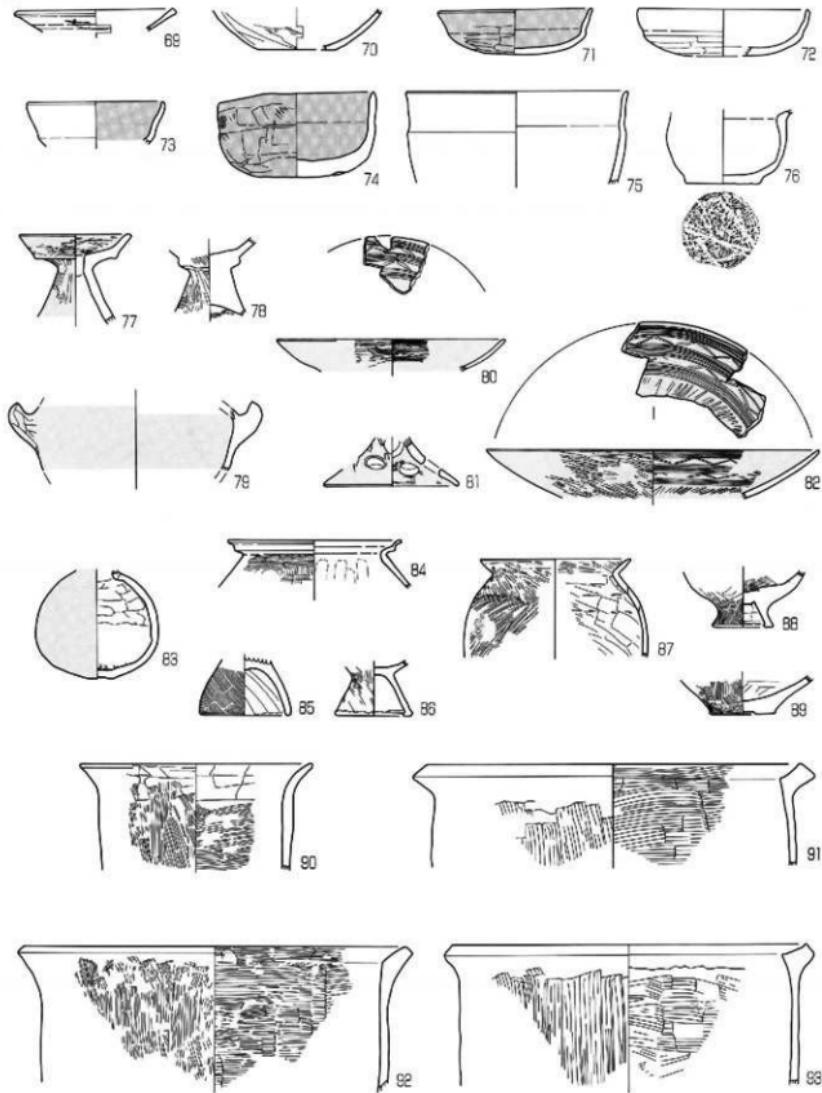


図7 調査区一括出土遺物 (2)

調査区一括

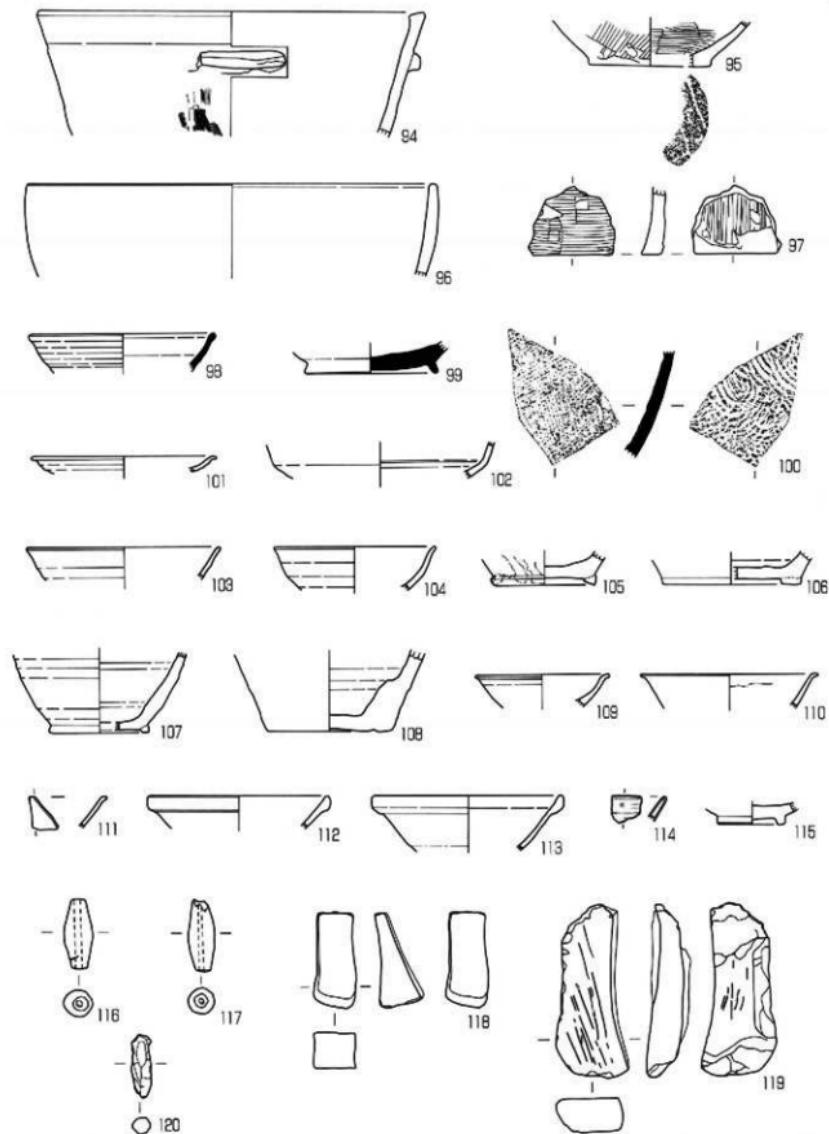


図8 調査区一括出土遺物（3）



表1 櫻田遺跡（第3次）出土遺物観察表

単位：cm ()は反転高測による割合値

番号	種別	器種	法 口 径			調 整	色 調	焼成	備考
			器 高	器 底	径				
1	土器	直	(18.6)	(2.6)	—	ナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐色	良	
2	上器	环	(12.4)	(2.5)	—	ロクロナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐色	良	内面炭化物付着
3	土器	环	12.5	3.5	4.5	ナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐色	良	墨青
4	土器	环	(13.0)	(3.8)	4.0	ロクロナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐色	良	
5	土器	环	13.9	4.3	5.7	ナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐色	良	内面黑色
6	土器	环	(15.0)	(4.5)	(4.8)	ロクロナデ・ケズリ	SVR 6/6 棕	良	内面黑色
7	土器	小形甌	(13.8)	—	—	ナデ・ハケ	5YR 6/6 棕	良	
8	土器	置き甌	—	—	—	ナデ・ハケ	5YR 5/6 明赤褐色	良	
9	土器	長颈甌	(29.6)	—	—	ナデ・ハケ	5YR 5/6 明赤褐色	良	
10	土器	羽釜	(25.0)	—	—	ナデ・ハケ	2.5YR 5/6 明赤褐色	良	
11	土器	古付甌	11.8	17.8	11.6	ナデ・ケズリ	2.5YR 4/6 赤褐色	良	
12	須恵器	环	14.0	4.6	7.4	ロクロナデ	5Y 8/1 灰白	良	内面紺拂
13	灰釉陶器	甌	—	—	(7.4)	ロクロナデ	2.5Y 6/1 黄灰	良	種ハケ彫り
14	灰釉陶器	釜	—	—	(10.4)	ロクロナデ	2.5Y 7/2 灰黄	良	
15	土製品	—	8.0	6.4	0.6		7.5YR 6/6 棕	良	
16	土製品	—	5.3	3.4	0.4		2.5YR 4/6 赤褐色	良	
17	土器	深鉢か	—	—	—	ナリ消し繩文	10YR 5/4 鈍い黄褐色	良	
18	土器	环	12.2	4.2	—	ナデ・ケズリ	7.5YR 5/4 鈍い褐色	良	
19	土器	环	(15.2)	—	—	ロクロナデ	7.5YR 4/6 棕	良	
20	土器	深き甌	(21.6)	26.2	(28.0)	ナデ・ハケ・摺頭痕	7.5YR 4/6 棕	良	外側炭化物付着
21	土器	円筒形	—	57.5	13.0	ナデ・ハケ	5YR 6/6 棕	良	輪積痕
22	土器	羽釜	(26.7)	—	—	ハケ・ナデ	5YR 5/6 明赤褐色	良	内面炭化物付着
23	土器	羽釜	(26.0)	—	—	ナデ・ハケ	7.5YR 5/6 明褐色	良	炭化物付着
24	土器	环	(12.8)	3.2	—	ナデ・ケズリ	5YR 7/8 棕	良	停止系切り
25	土器	环	(12.4)	3.6	—	ケズリ	7.5YR 3/2 黑褐色	良	
26	土器	台付甌	(14.4)	—	—	ナデ・ハケ	7.5YR 6/4 鈍い棕	良	S字状口縁部
27	土器	壠	11.0	9.7	—	ミガキ	5YR 7/6 棕	良	内外赤色変動
28	土器	甌	17.0	20.4	8.0	ナデ	7.5YR 5/6 明褐色	良	
29	土器	長財甌	22.9	37.7	(9.8)	ナデ・ハケ・押き	10YR 5/3 鈍い黄褐色	良	輪積痕
30	瓦	—	—	—	—	(内)布目・(外)繩目	5Y 4/1 灰	良	
31	土器	かわらけ	(9.0)	2.0	4.6	ロクロナデ	7.5YR 4/4 棕	良	回転糸切り
32	土器	甌	(23.0)	—	—	ナデ・ハケ	5YR 4/6 赤褐色	良	輪積痕
33	土器	环	—	—	(4.4)	ハケ	5YR 4/6 赤褐色	良	輪積痕
34	土製品	筋鉢車	—	—	—	ナデ	2.5YR 5/8 明赤褐色	良	
35	土器	高台甌	9.8	3.4	7.2	ミガキ・内外面暗暈	2.5YR 6/8 棕	良	削り出し高台
36	土器	环	(14.2)	3.5	—	ナデ・ミガキ・ケズリ	10YR 3/1 摺褐色	良	
37	土器	环	14.0	3.8	11.1	ナデ	5YR 7/8 棕	良	
38	土器	甌	13.4	8.5	4.6	ナデ・ハケ	5YR 5/4 鈍い赤褐色	良	折り返し口縁
39	土器	深鉢か	—	—	—		7.5YR 4/4 棕	良	繩文土器
40	須恵器	环	(14.0)	4.2	6.8	ロクロナデ	2.5YR 7/1 灰白	良	輪神祇
41	土器	环	11.3	2.0	6.0	ロクロナデ	10YR 7/5 鈍い黄褐色	良	回転糸切り
42	土器	环	(12.8)	(3.9)	(6.0)	ロクロナデ	2.5YR 5/6 明赤褐色	良	回転糸切り
43	土器	环	12.1	3.5	6.0	ロクロナデ	10YR 7/6 明赤褐色	良	回転糸切り
44	土器	圓高台甌	—	—	9.0	ロクロナデ	5YR 6/6 棕	良	
45	灰釉陶器	环	17.0	—	—	ロクロナデ	2.5YR 7/1 灰白	良	
46	須恵器	壠	(19.3)	—	—	ロクロナデ	N 6/ 灰	良	輪積痕
47	灰釉陶器	甌	—	—	(7.0)	ロクロナデ	2.5YR 7/1 灰白	良	
48	土器	环	(12.4)	3.8	—	ロクロナデ・ケズリ	5YR 5/6 明赤褐色	良	
49	土器	环	(12.6)	4.4	(4.4)	ロクロナデ・ケズリ	5YR 6/8 棕	良	
50	土器	环	(13.2)	3.5	(6.2)	ロクロナデ	5YR 6/6 棕	良	
51	土器	羽釜	(22.8)	—	—	ナデ・ハケ	7.5YR 6/2 灰褐色	良	
52	土器	甌	(36.0)	—	—	ハケ	7.5YR 6/6 棕	良	
53	土器	甌	—	—	8.0	ハケ	7.5YR 6/6 棕	良	
54	灰釉陶器	甌	—	—	(7.6)	ロクロナデ	10YR 7/1 灰白	良	三日月高台
55	土器	瓦星	7.4	—	—	ロクロナデ	10YR 7/1 明赤褐色	良	
56	土器	甌	(21.6)	—	—	ハケ	7.5YR 5/6 明褐色	良	
57	土器	深鉢	—	—	—		7.5YR 4/6 棕	良	繩文土器
58	土器	深鉢	—	—	—	半截竹管	7.5YR 5/4 鈍い黄褐色	良	繩文土器
59	土器	深鉢	—	—	—		7.5YR 6/6 棕	良	繩文土器
60	土器	深鉢	—	—	—		10YR 6/4 鈍い黄褐色	良	繩文土器

表2 横田遺跡(第3次)出土遺物観察表

単位: cm ()は反転実測による保元値

番号	種別	器種	法 口 径 深 度 底 径			調 査	色 調	焼成	備考
			横	縦	底				
61	土器	环	—	—	4.4	ロクロナデ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	同軸系切り
62	土器	环	(8.8)	2.3	(5.2)	ロクロナデ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	
63	土器	环	(12.2)	(3.3)	(4.8)	ロクロナデ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	
64	土器	环	(14.1)	(4.2)	(6.2)	ロクロナデ・ケズリ	5YR 6/6 棕	良	
65	土器	环	—	—	—	ナデ・ミガキ・ケズリ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	内面黒色
66	土器	环	12.8	3.4	4.7	ロクロナデ・ケズリ	5YR 5/6 明赤褐	良	
67	土器	环	13.4	3.9	5.9	ロクロナデ	5YR 6/6 棕	良	同軸系切り
68	土器	环	(14.2)	4.6	6.8	ロクロナデ	5YR 6/6 棕	良	
69	土器	环	(12.6)	—	—	ロクロナデ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	通書
70	土器	环	—	—	(6.3)	ロクロナデ・ケズリ	2.5YR 5/6 明赤褐	良	黒書
71	土器	环	(12.4)	3.6	—	ミガキ・ケズリ	10YR 4/1 褐灰	良	内外面黒色
72	土器	环	(13.8)	(3.8)	—	ミガキ・ケズリ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	外面炭化物付着
73	土器	环	(11.0)	—	—	ナデ・ミガキ	N 3/ 薄灰	良	内面黒色
74	土器	环	12.5	6.5	—	ナデ・ミガキ・ケズリ・ハケ	10YR 5/3 鈍い黄褐色	良	内外面黒色
75	土器	塊	(18.0)	—	—	ナデ・ミガキ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	
76	土器	小型甕	—	—	6.1	ナデ	5YR 4/4 鈍い赤褐	良	木葉痕
77	土器	器台	(9.0)	—	—	ミガキ	5YR 6/6 棕	良	赤色塗彩
78	土器	高环	—	—	—	ハケ	5YR 6/6 棕	良	
79	土器	瓶	—	—	—	ナデ・ミガキ	10YR 5/6 赤	良	内外面赤色塗彩
80	土器	高环	(18.4)	—	—	ミガキ・機械状態文	10YR 4/4 赤褐	良	内外面赤色塗彩
81	土器	高环	—	—	(10.6)	ナデ・ミガキ・ハケ	10YR 4/4 赤褐	良	内外面赤色塗彩
82	土器	高环	(27.0)	—	—	ミガキ・機械状態文	5YR 5/6 明赤褐	良	内外面赤色塗彩
83	土器	小型壺	—	—	—	ナデ・ケズリ	7.5YR 6/6 棕	良	外表面赤色塗彩
84	土器	台付壺	(14.0)	—	—	ナデ・指頭ナデ・ハケ	7.5YR 6/4 鈍い棕	良	
85	土器	台付壺	—	—	7.6	指頭ナデ・ハケ	2.5Y 5/6 明赤褐	良	
86	土器	台付壺	—	—	5.9	ハケ	5YR 6/6 棕	良	指頭痕
87	土器	小形甕	(12.0)	—	—	ナデ・ハケ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	炭化物付着
88	土器	台付壺	—	—	(5.0)	ケズリ・ハケ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	輪積痕
89	土器	甕	—	—	5.4	ナデ・ハケ	2.5YR 4/4 鈍い赤褐	良	外表面炭化物
90	土器	長胴甕	(18.8)	—	—	ナデ・ハケ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	
91	土器	甕	(30.2)	—	—	ナデ・ハケ	5YR 5/6 明赤褐	良	
92	土器	甕	(31.0)	—	—	ハケ	7.5YR 5/6 明褐	良	
93	土器	甕	(28.8)	—	—	ナデ・ハケ	7.5YR 6/6 棕	良	
94	土器	拖手鍋	(31.0)	—	—	ナデ・ハケ	5YR 6/6 棕	良	
95	土器	長胴甕	—	—	(10.0)	ハケ	7.5YR 6/6 棕	良	木葉痕・指頭痕
96	土器	鍋かき	(37.6)	—	—	ナデ	7.5YR 5/4 鈍い褐	良	スス付着
97	土器	置き甕	—	—	—	ナデ・ハケ	7.5YR 7/6 棕	良	
98	須恵器	甕	(15.0)	—	—	ロクロナデ	7.5Y 5/1 灰	良	
99	須恵器	甕かき	—	—	10.4	ロクロナデ	7.5Y 5/1 灰	良	
100	須恵器	甕	—	—	—	タキ・青海波文	N 6/ 灰	良	
101	縄釉陶器	甕	(15.0)	—	—	ロクロナデ	10Y 4/2 オリーブ灰	良	
102	縄釉陶器	甕	—	—	—	ロクロナデ	7.5Y 4/3 緑オリーブ	良	
103	灰釉陶器	甕	(15.8)	—	—	ロクロナデ	2.5Y 7/2 灰灰	良	
104	灰釉陶器	甕	(13.0)	—	—	ロクロナデ	2.5Y 8/1 灰白	良	
105	灰釉陶器	甕	—	—	(8.3)	ロクロナデ	5Y 7/1 灰白	良	
106	灰釉陶器	甕	—	—	(11.0)	ロクロナデ	2.5Y 6/1 黄灰	良	付着高台
107	灰釉陶器	甕	—	—	(8.0)	ロクロナデ	5Y 6/1 灰白	良	
108	灰釉陶器	甕	—	—	(10.0)	ロクロナデ	2.5Y 7/1 灰白	良	
109	白磁	甕	(10.8)	—	—	—	—	良	
110	白磁	甕	(14.2)	—	—	—	—	良	
111	白磁	甕	—	—	—	—	—	良	
112	白磁	甕	(14.5)	—	—	—	—	良	
113	白磁	甕	(15.0)	—	—	—	5Y 7/2 灰白	良	
114	青磁	甕かき	—	—	—	—	10Y 5/2 オリーブ灰	良	
115	青磁	甕	—	—	(5.0)	—	2.5Y 7/1 灰白	良	
116	土製品	土瓶	5.7	2.3	0.6	—	7.5YR 6/6 棕	良	
117	土製品	土瓶	(5.7)	2.2	0.4	—	5YR 6/6 棕	良	
118	石製品	砾石	(7.7)	3.4	2.9	—	—	良	
119	石製品	砾石	14.0	5.5	2.7	—	—	良	
120	铁製品	—	5.1	1.5	1.4	—	—	良	

38 家之前遺跡（第3次）

調査位置 甲府市里吉三丁目790、793-1

調査原因 集合住宅建設

対象面積 1,393.66m²

調査面積 46m²

調査期間 平成8年11月6日～21日

調査担当 志村憲一

調査の概要

盆地低地部標高約257mに位置する平安時代の遺跡である。周辺には里吉天神遺跡、十丁遺跡、西方には朝氣遺跡など古墳～平安時代にかけての遺跡が多数見られる。

調査区に、南北23m×幅2mのトレーナーを設定し、重機で深さ1.2m掘削を行った。遺構は検出されなかったが、地表下0.8mの第5層からは壙、地表下1.4mの第7層では土師器小片が検出された。



図3 出土遺物

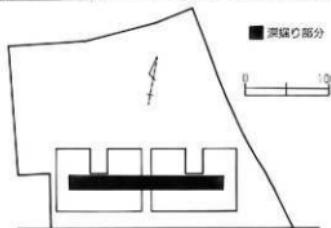


図1 試掘坑配置図



図2 深掘り部分北壁セクション

39 榎田遺跡（第4次）

調査位置 甲府市千塚五丁目2962-7

調査原因 個人住宅建設

対象面積 267.43m²

調査面積 4m²

調査期間 平成8年11月13日～14日

調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査地点は、山梨県埋蔵文化財センターが平成3年に発掘調査を実施した地点から東に約120m離れ、標高約302.5mで前述の37.榎田遺跡に隣接し約1m低い位置に立地する。

対象地に2×2mの調査グリッドを設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、地表下70cmの地層から直径20cmを超える河原石が出上り始め、それより下層は褐色の砂質土となった。

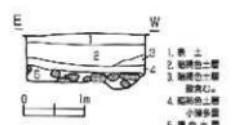
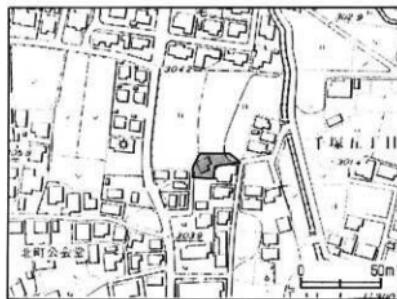


図1 試掘坑南壁セクション

40 家之前遺跡（第4次）

調査位置 甲府市里吉三丁目982-1
 調査原因 集合住宅建設
 対象面積 943.41m²
 調査面積 約80m²
 調査期間 平成8年11月6日～21日
 調査担当 志村憲一

遺跡の概要

本報告書掲載19・25・38の家之前遺跡（第1～3次）の南側に近接し、他の地点と同様にはほぼ平坦であり標高は約257mである。

調査の概要

調査は2箇所にトレンチを設定し、重機で掘削を行い人力で精査を行った。

トレンチ1は、東西12m、幅4m、中央部は南側に部分的に拡張した。地表下約70cm地点からは、N-52°-E方向に軸線をもつ、幅0.8～1.8m、深さ10～30cmの溝に囲まれた、一辺約4mの方形のプランが確認された。この方形の高まり内からは土師器片が200点以上確認され、特に南端からは多量に検出された。方形プラン東側には幅1.7m、深さ10cmの溝が確認された。遺物は、壺・小型壺・S字甕・甕・台付甕・高坏など古墳時代前期に位置づけられる土器が出土した。

トレンチ2は、東西12m、幅2m、深さ60cmのトレンチである。トレンチ内からは幅2m、深さ40cmの南北方向の溝が確認されている。

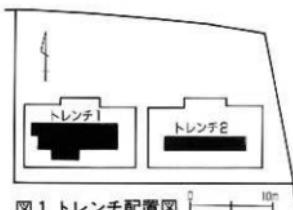
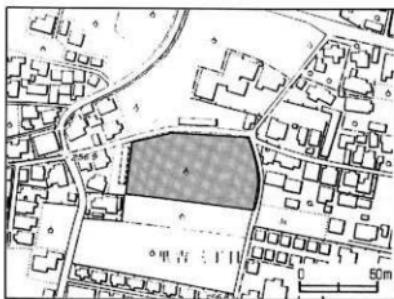
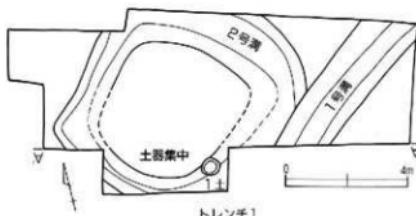


図1 トレンチ配置図



トレンチ1



図2 トレンチ1全体図・セクション

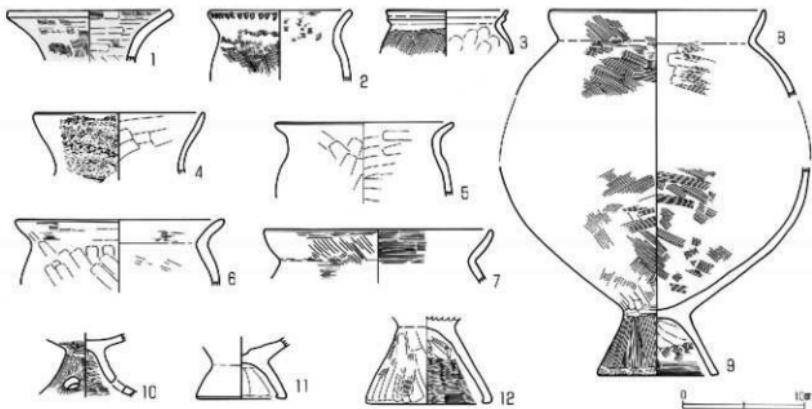


表1 家之前遺跡（第4次）出土遺物観察表

単位：cm ()は反転実測による復元値

番号	種別	器種	法 日 径	高 さ 基 径	調 整	色 調	焼 成	備 考
1	土器	壺か	(13.6)	—	—	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	赤色施彩
2	土器	小型甕	(11.6)	—	—	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
3	土器	台付甕	(10.0)	—	—	5YR 6/6 橙	良	S字状口縁
4	土器	甕	(14.0)	—	—	10YR 6/3 鈍い橙	良	
5	土器	甕	(14.6)	—	—	10YR 7/4 鈍い黄橙	良	
6	土器	甕	(17.2)	—	—	5YR 6/6 橙	良	
7	土器	甕	(18.8)	—	—	5YR 6/6 橙	良	
8	土器	台付甕	(17.6)	—	—	7.5YR 6/4 鈍い橙	良	
9	土器	台付甕	—	—	9.9	ナデ・ハケ	良	8と同一個体か
10	土器	高壺	—	—	—	ミガキ・ハケ	良	3箇所に透かし穴
11	土器	台付甕	—	—	(7.5)	指頭ナデ	良	
12	土器	台付甕	—	—	(10.4)	ハケ	7.5YR 6/4 鈍い橙	良



写真1 トレンチ1



写真2 トレンチ2

41 御崎田遺跡

調査位置 甲府市東光寺二丁目4-349他
調査原因 宅地造成
対象面積 6,297.48m²
調査面積 40m²
調査期間 平成9年2月6日～12日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

御崎田遺跡は、愛宕山と善光寺山の間にあり、高倉川により形成された扇状地の標高260m付近に位置する。当初2×2mの調査グリッドを4箇所設定し、その後重機で拡張し試掘調査を行った。

調査の結果、地表下0.5～3mまで粘性の強い粘土が堆積していた。既存の工場建設による造成工事のためか、遺構は全く検出されなかった。また、出土遺物も土師質土器の小片が5点出土しただけである。

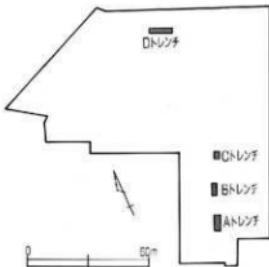
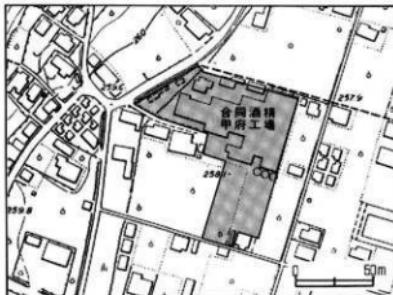


図1 試掘坑配置図

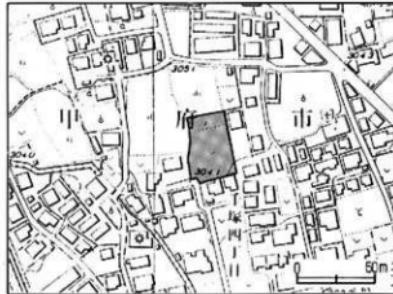
42 天神西遺跡（第2次）

調査位置 甲府市千塚四丁目3230他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 943.61m²
調査面積 28m²
調査期間 平成9年2月19日～25日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

天神西遺跡は荒川に開析された扇状地の標高302m付近に位置する。当初2×2mの調査グリッドを4箇所設定し（南西より時計回りにA、B、C、D）、試掘調査を行った。

調査の結果Aグリッドで、地表下80cmで平安時代の竪穴住居跡が確認でき、Cグリッドで地表下100cmにおいて古墳時代前期の竪穴住居跡が確認でき、Dグリッドでは礫の堆積中から布目瓦と灰釉陶器片が出土した。そのため、Cグリッドを拡張し調査をおこなった。その結果、古墳時代前期の竪穴住居跡はさらに広がる様相を呈した。予定される建築物の基礎が地表下45cmの設置であるため、埋蔵文化財への影響は少ないものと判断し、試掘調査を終了した。



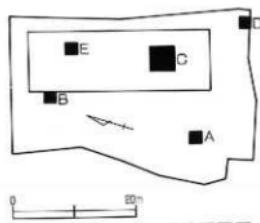
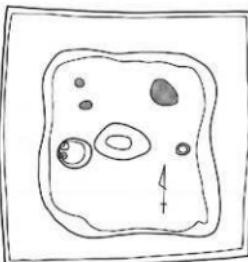


図1 試掘坑配置図



- A・B・Cグリッド土層説明 -
- 1. 反覆色土層(褐色土)
- 2. 淡褐色土層(水田土)
- 3. 黄褐色土層
- 4. 黑褐色土層
白色の砂が混じる。
- 5. 細粒土層
色調は暗く、土粒子が細かい。
- 6. 開闢剖面土層
- 7. 細粒土層
色調は比較的暗い。
- 8. 黄褐色土層
色調は比較的明るい。
- 9. 黑褐色土層
黒褐色で凝聚の跡が残る。
- 10. 淡褐色土層



図2 Cグリッド全体図・セクション

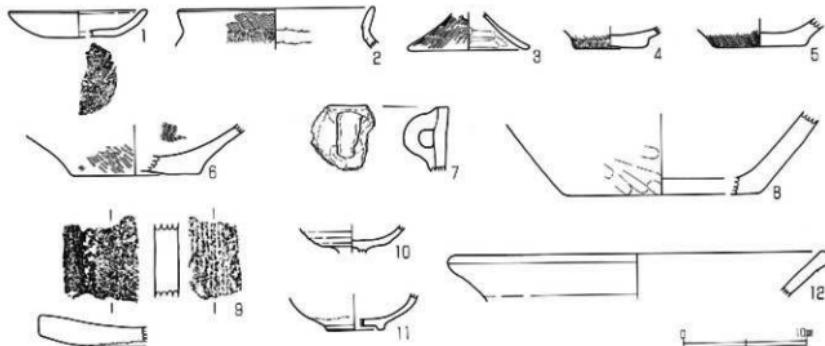


図3 出土遺物

表1 天神西遺跡（第2次）出土遺物観察表

単位: cm ()は板状実測による復元値

番号	種別	器種	法 口 径	高 さ	底 径	調 整	色 調	焼成	備 考
1	土器	环	11.2	(2.1)	(6.0)	ナテ	5YR 6/6 棕	良	
2	土器	甌	(15.9)	—	—	ナテ・ハケ	5YR 4/4 純い赤褐	良	
3	土器	高环	—	—	—	ナテ・ミガキ	5YR 5/6 明赤褐	良	
4	土器	甌	—	—	5.1	ナテ・ハケ	7.5YR 6/4 純い棕	良	
5	土器	甌	—	—	7.6	ナテ・ミガキ	7.5YR 7/4 純い棕	良	
6	土器	甌	—	—	(10.4)	ナテ・ハケ	2.5YR 6/6 棕	良	
7	土器	内耳鉢	—	—	—	ナテ	5YR 6/4 純い棕	良	
8	土器	甌	—	—	(16.0)	指頭ナテ	10YR 6/2 灰質褐	良	
9	瓦	平瓦	—	—	—		7.5Y 5/1 灰	良	布目瓦
10	陶器	仏龕形	—	—	—	ロクロナデ	2.5Y 8/4 淡黄	良	
11	陶器	甌	—	—	(4.6)	ロクロナデ	2.5Y 8/2 灰白	良	
12	灰陶器	甌	(31.0)	—	—	ロクロナデ	2.5Y 7/1 灰白	良	

43 永井遺跡

調査位置 甲府市小松町425-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 189.37m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成9年3月4日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

永井遺跡が所在する小松町は、相川扇状地の扇端部標高322m付近に位置する。調査区に2×2mの調査グリッドを1箇所設定し試掘を行った。調査の結果、地表下60cmまで砂が客土され、地表下100~110cmで古墳~平安時代にかけての土器等が出土した。また、地表下130cmの地層から直径約20cmの人の頭骨が出土した。

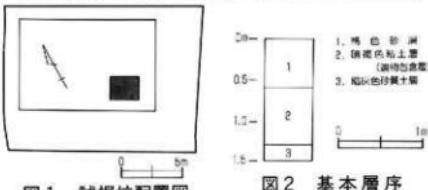


図1 試掘坑配置図

図2 基本層序

図3 出土遺物

44 朝氣遺跡（第13次）

調査位置 甲府市朝氣二丁目670-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 151.18m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成9年3月11日~12日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

朝氣遺跡は古代には巨摩郡青沼郷に所在していたと考えられ、また、郷域の東端は山梨郡表門郷と境を接していたものと考えられる。

これまでおこなった朝氣遺跡の調査結果から、朝氣遺跡の中心は朝氣一丁目の甲府市立東小学校から西にかけてあることが予想されている。

今回の調査は、2×2mの試掘グリッドを設定し調査を行った。調査の結果、土師質土器小片が数点出土したが、地表下75cmまでが擾乱層、以下は自然堆積層であった。



図1 基本層序

緑が丘二丁目遺跡(第8次)



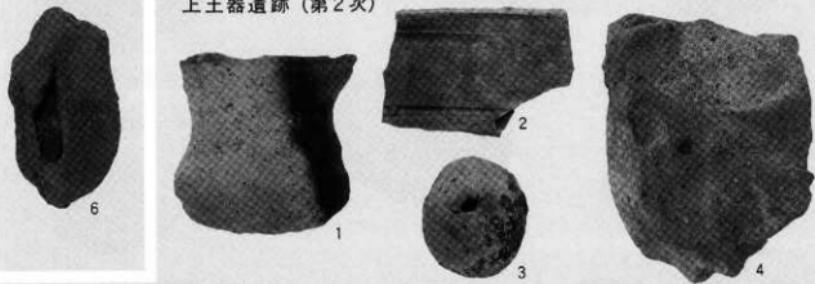
音羽遺跡



加牟那塚古墳



上土器遺跡(第2次)

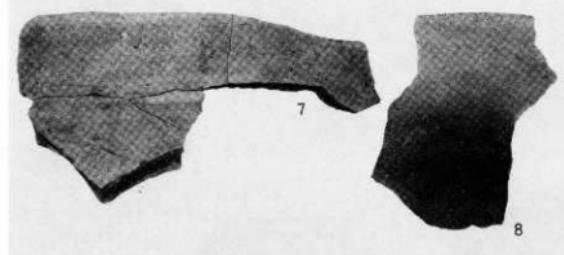


緑が丘一丁目遺跡(第6次)(1)

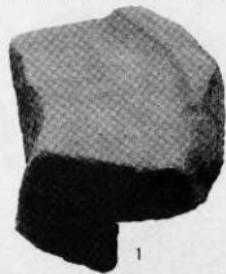


図版1 緑が丘二丁目遺跡(第8次)、音羽遺跡、加牟那塚古墳、上土器遺跡(第2次)、緑が丘一丁目遺跡(第6次)(1)

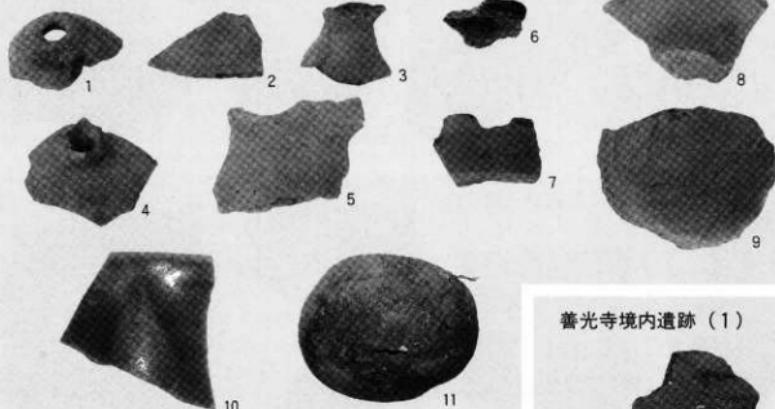
緑が丘一丁目遺跡（第6次）(2)



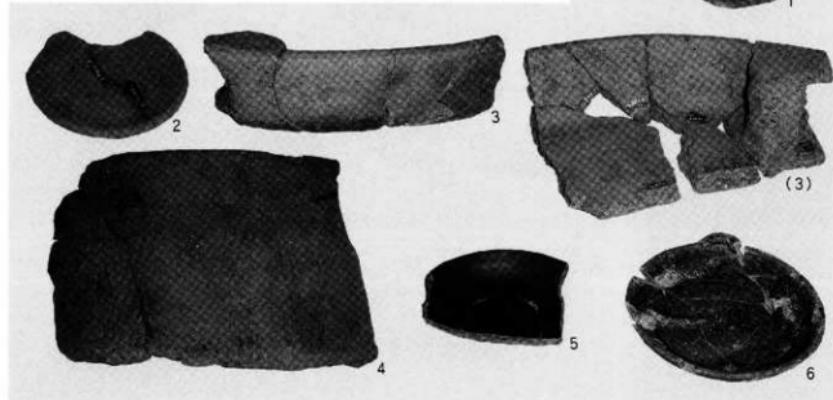
大手下遺跡・武田城下町遺跡



十丁遺跡



善光寺境内遺跡(1)



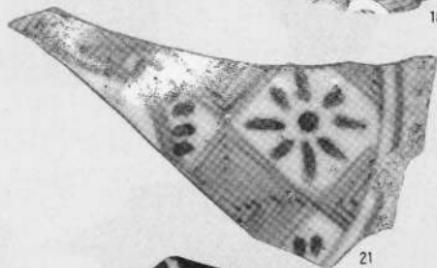
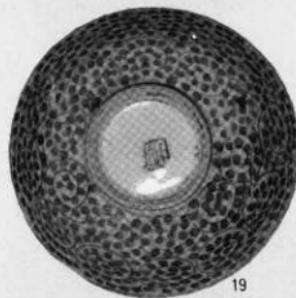
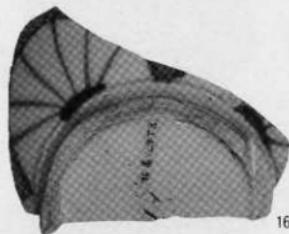
図版2 緑が丘一丁目遺跡(第6次)(2)、大手下遺跡・武田城下町遺跡、十丁遺跡、善光寺境内遺跡(1)

善光寺境内遺跡（2）



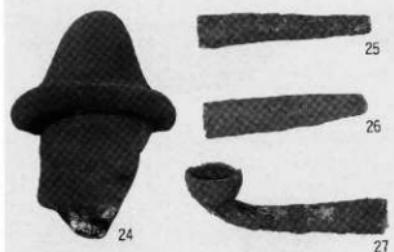
図版3 善光寺境内遺跡（2）

善光寺境内遺跡（3）



図版4 善光寺境内遺跡（3）

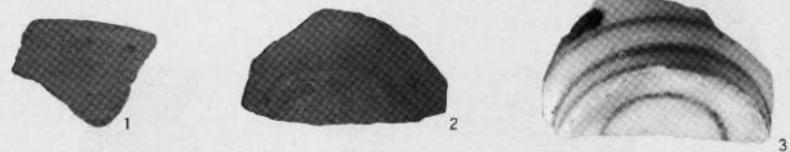
善光寺境内遺跡（4）



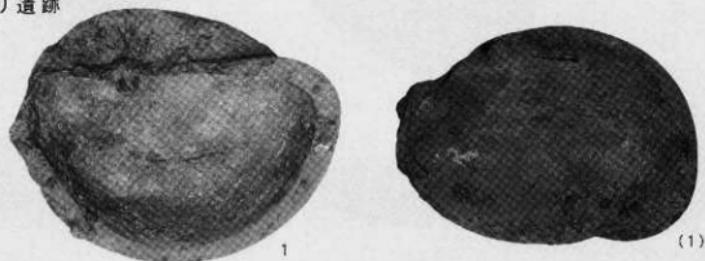
榎田遺跡（第1次）



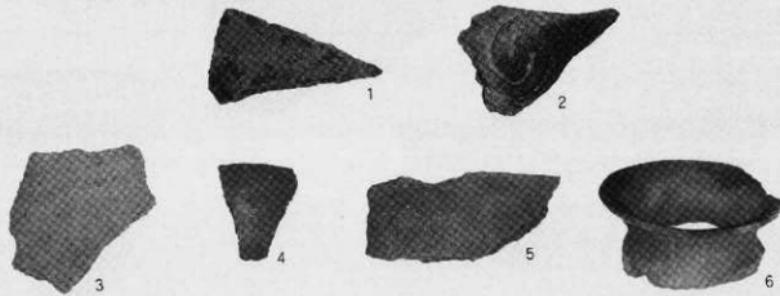
桜林B遺跡



汗タリ遺跡

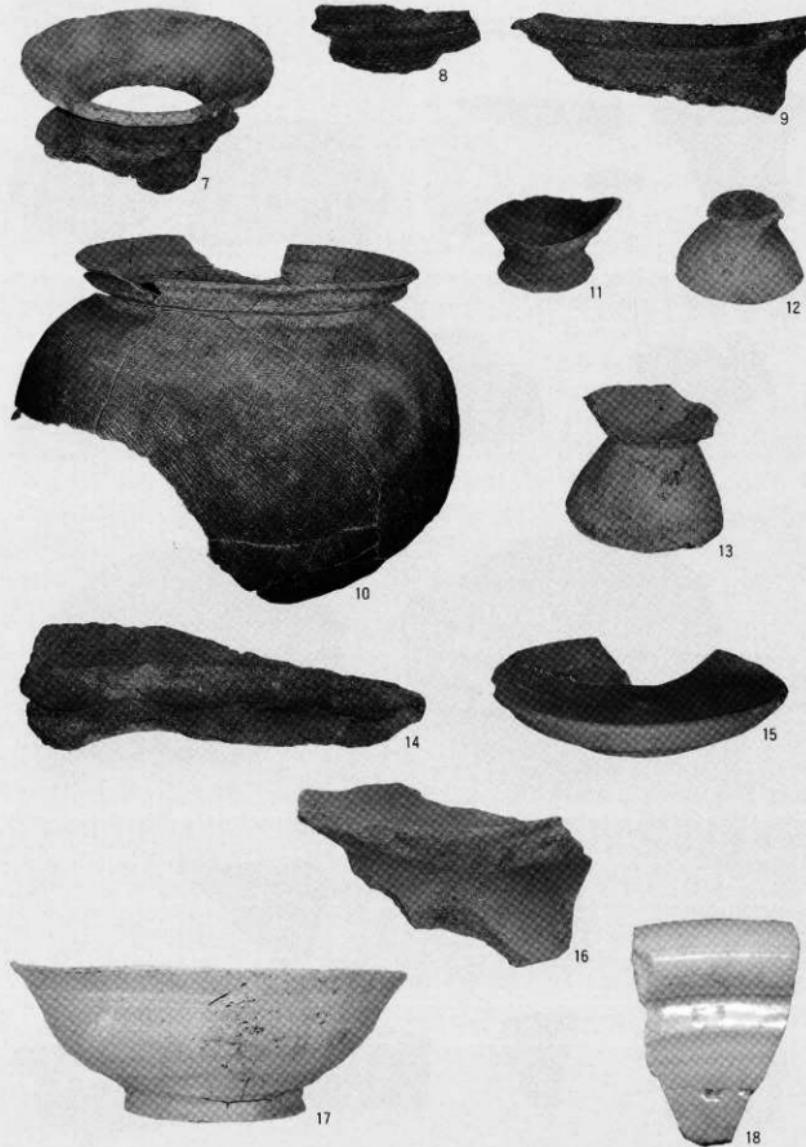


金塚西遺跡（第2次）(1)



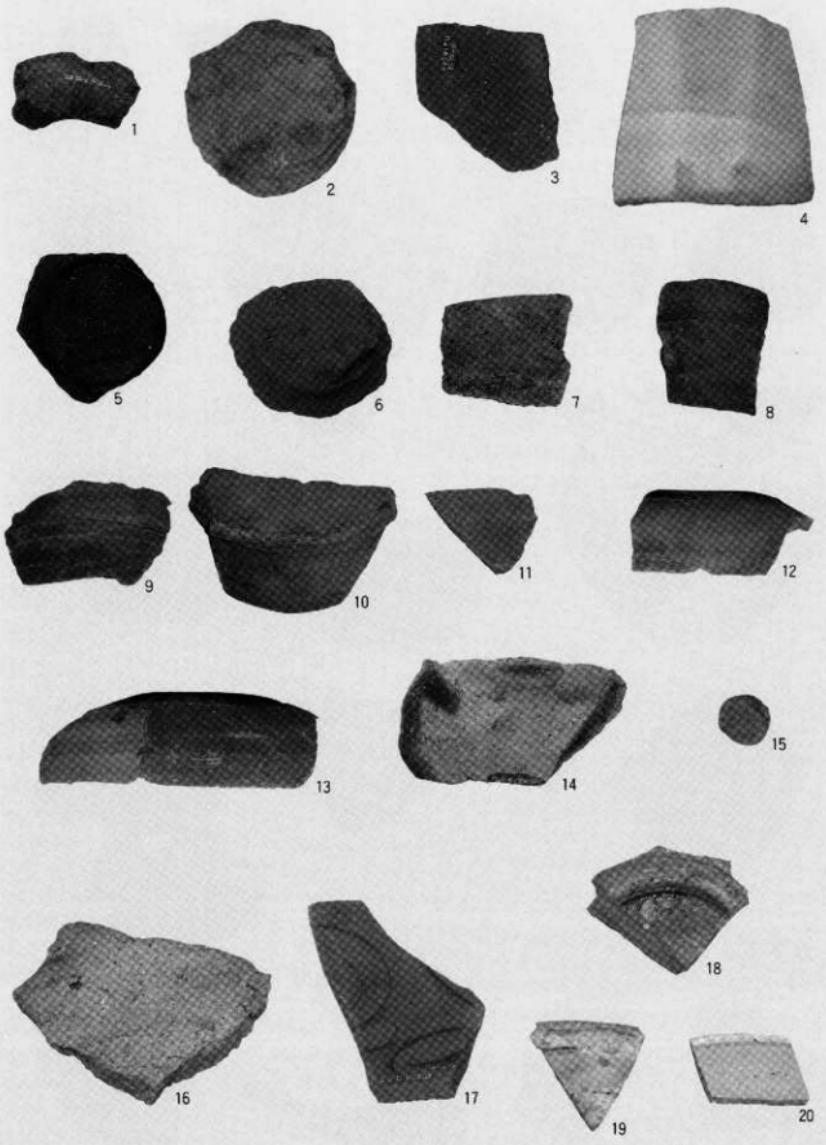
図版5 善光寺境内遺跡(4)、榎田遺跡(第1次)、桜林B遺跡、汗タリ遺跡、金塚西遺跡(第2次)(1)

金塚西遺跡（第2次）(2)



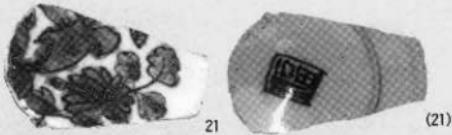
図版6 金塚西遺跡（第2次）(2)

榎田遺跡（第2次）(1)

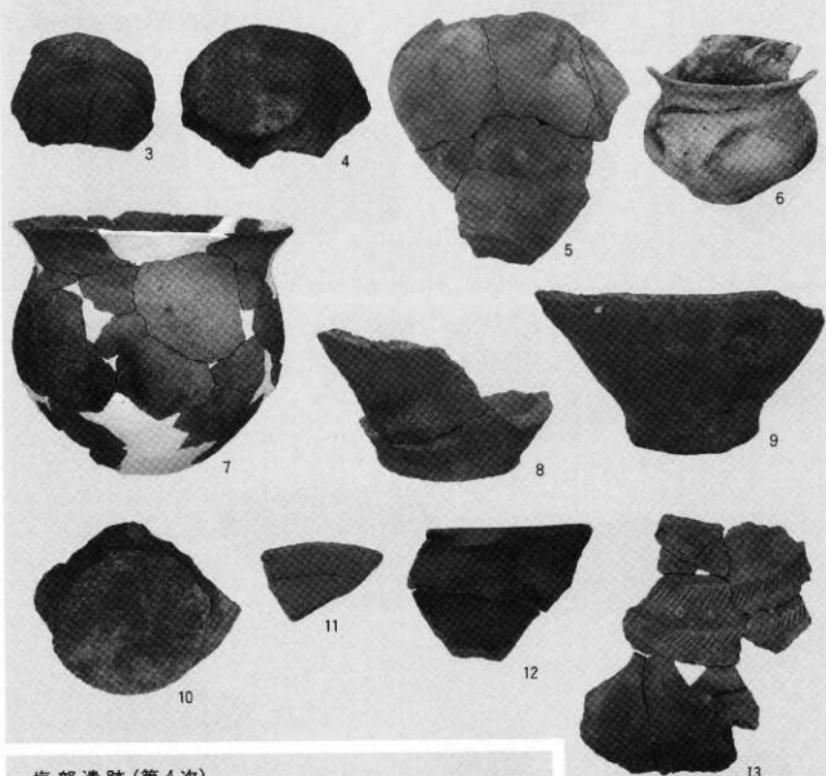


図版7 榎田遺跡（第2次）(1)

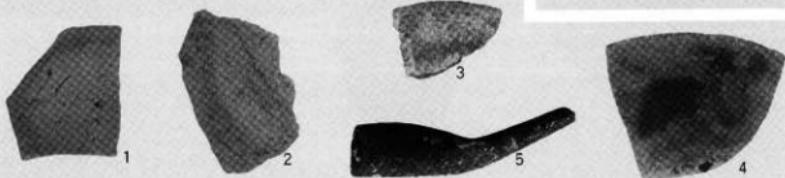
棲田遺跡(第2次)(2)



幸町A遺跡

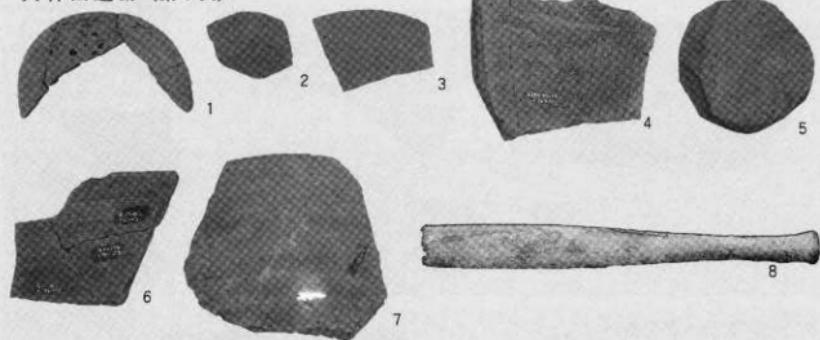


塩部遺跡(第4次)



図版8 棲田遺跡(第2次)(2)、幸町A遺跡、塩部遺跡(第4次)

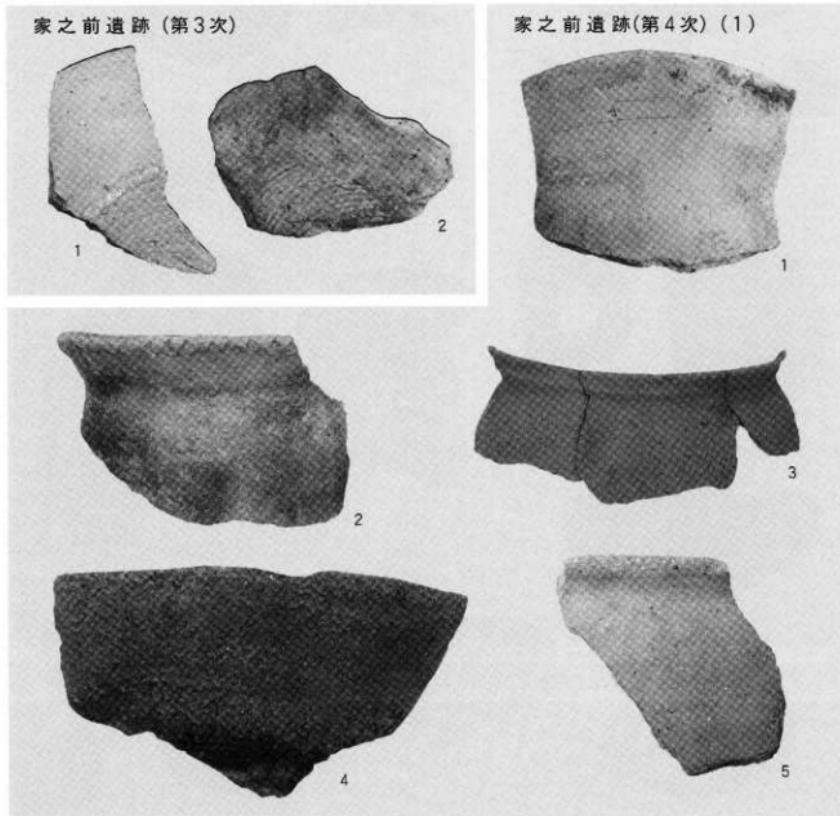
天神西遺跡(第1次)



家之前遺跡(第3次)

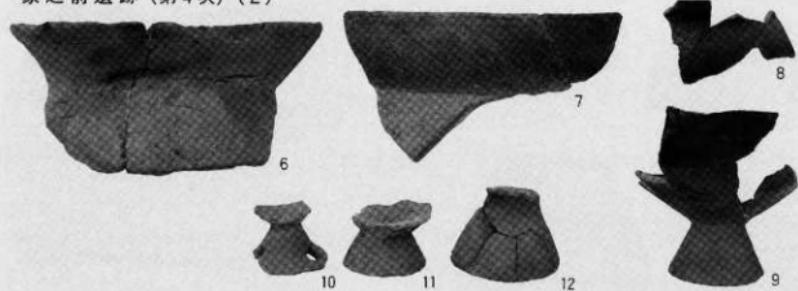


家之前遺跡(第4次)(1)

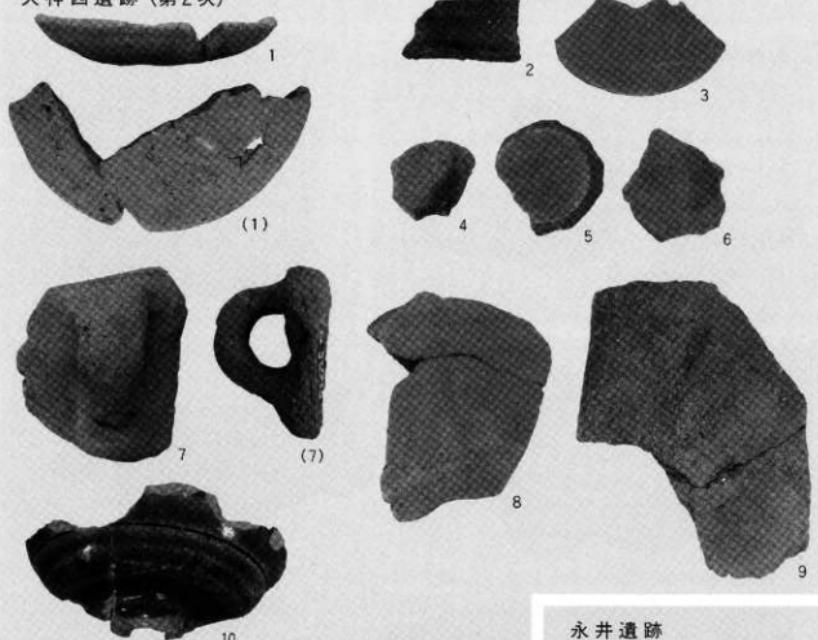


図版9 天神西遺跡(第1次)、家之前遺跡(第3次)、家之前遺跡(第4次)(1)

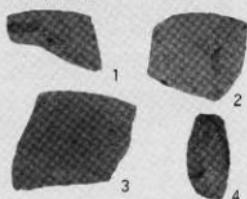
家之前遺跡(第4次)(2)



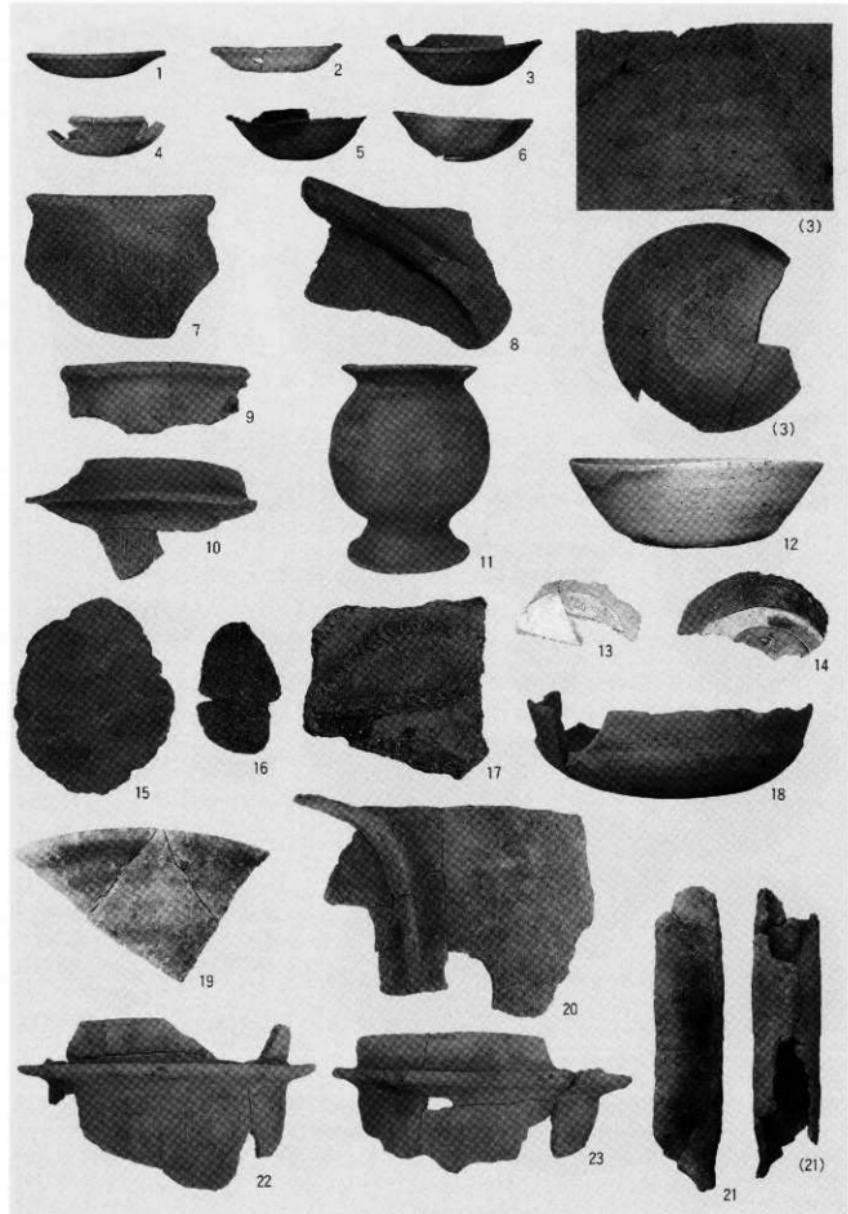
天神西遺跡(第2次)



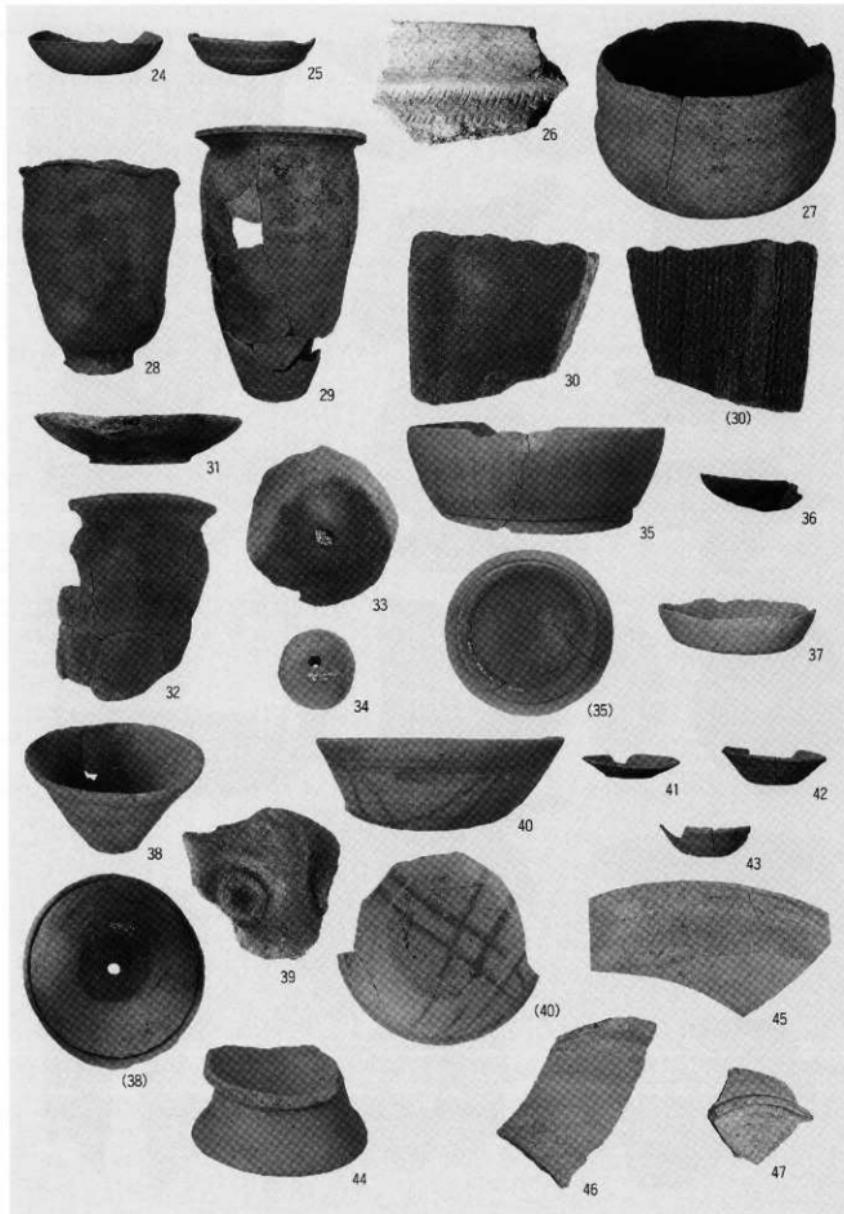
永井遺跡



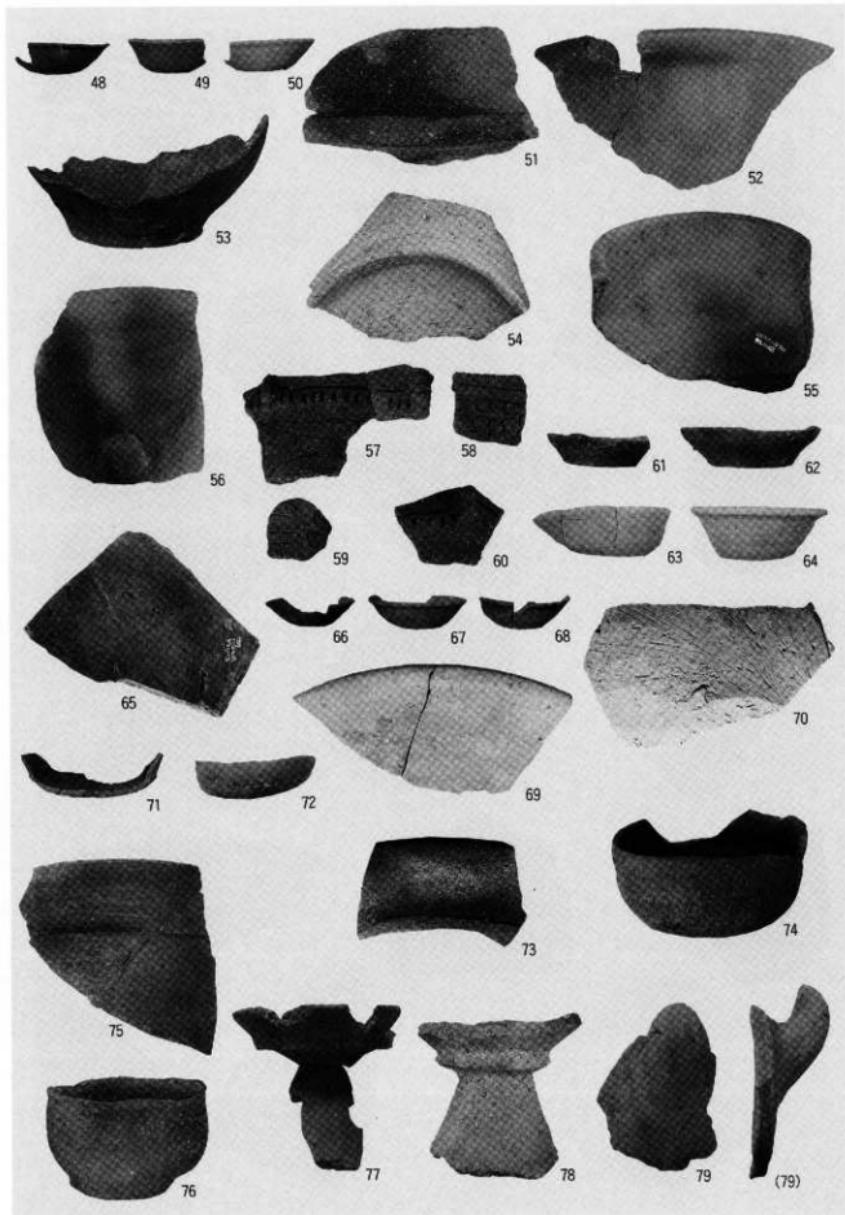
図版10 家之前遺跡(第4次)(2)、天神西遺跡(第2次)、永井遺跡



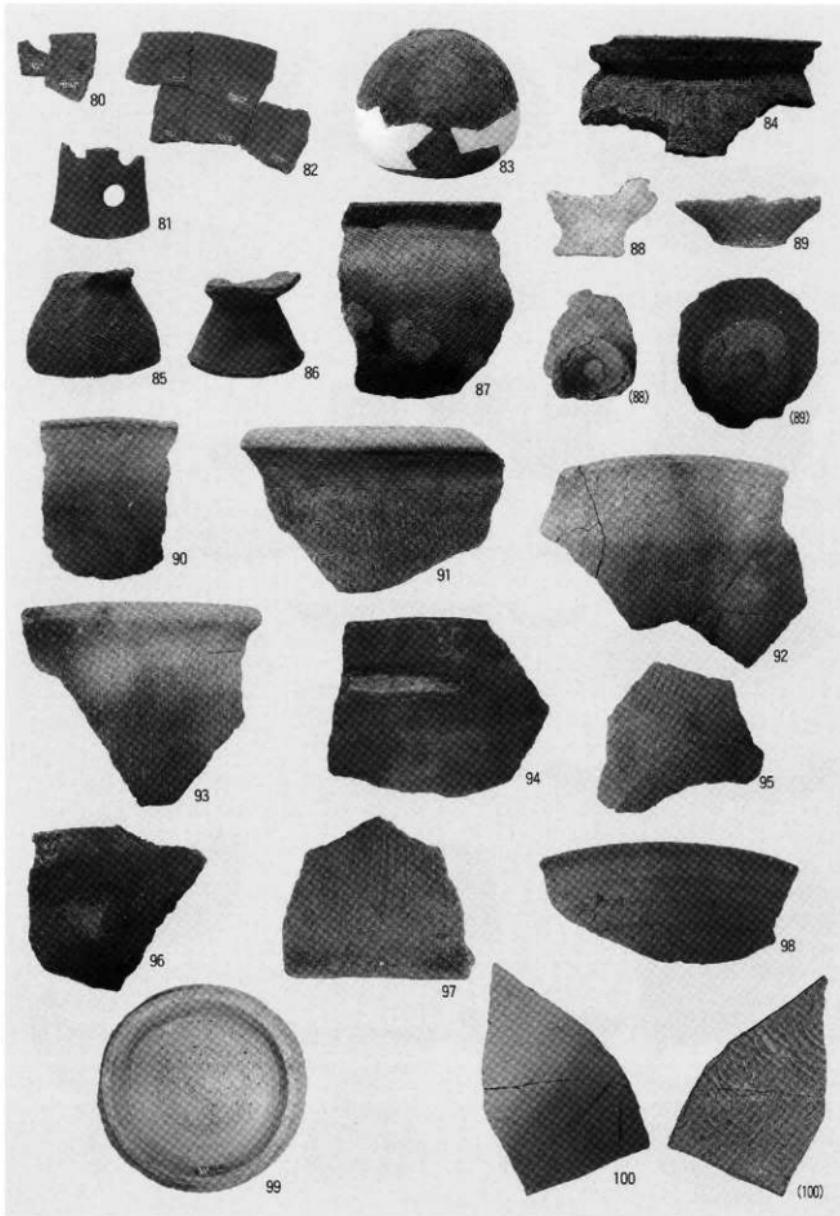
図版11 櫻田遺跡（第3次）(1)



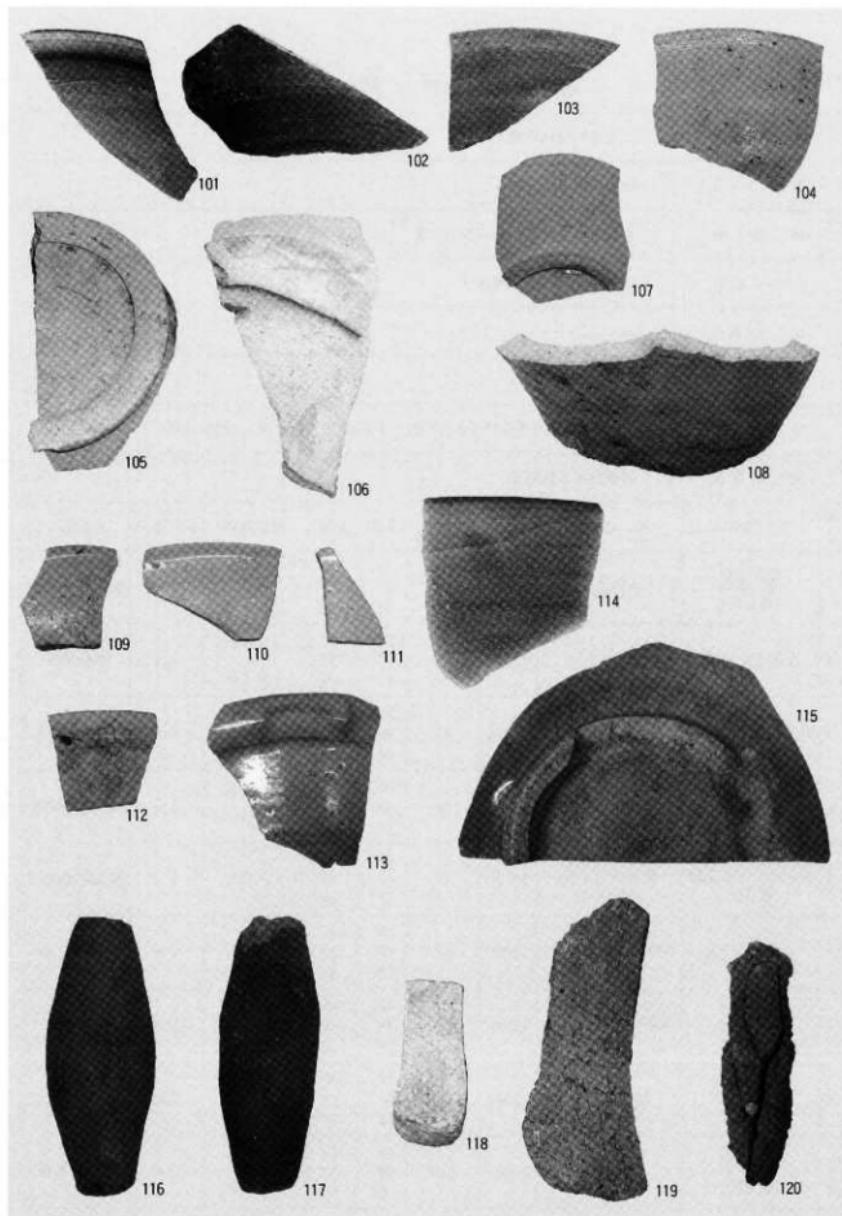
図版12 櫻田遺跡（第3次）(2)



図版13 櫻田遺跡（第3次）（3）



図版 14 楊田遺跡（第3次）(4)



図版 15 櫻田遺跡(第3次)(5)

報告書抄録

ふりがな	こうふしないいせき 3							
書名	甲府市内遺跡 III							
副書名	平成7・8年度試掘調査報告書							
シリーズ名	甲府市文化財調査報告							
シリーズ番号	31							
編集機関	甲府市教育委員会							
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18-1 電話 055(223)7324							
発行年月日	平成18年3月31日							
番号	所収遺跡名	所在地 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
1	深田遺跡 (第2次)	甲府市606	19201 211	35°38'44"	138°36'05"	平成7年(1995) 4月5日 ~ 4月6日	4 m ²	個人住宅建設
2	上町天神遺跡	上町1739-3・4、 1740-1 他	19201 225	35°37'47"	138°35'09"	4月6日 ~ 4月7日	1 m ²	物置建設
3	縁が丘二丁目遺跡 (第8次)	縁が丘二丁目 893-10	19201 42	35°40'46"	138°33'55"	4月10日 ~ 4月13日	4 m ²	個人住宅建設
4	音羽遺跡	音羽町443-9	19201 28	35°40'31"	138°32'43"	5月9日 ~ 5月17日	4 m ²	個人住宅建設
5	縁が丘一丁目遺跡 (第5次)	縁が丘一丁目 108-5・6	19201 43	35°40'27"	138°33'50"	5月30日	4 m ²	個人住宅建設
6	加牟那塚古墳	千塚三丁目2547-4 他	19201 25	35°40'53"	138°32'47"	5月30日	4 m ²	下水道工事
7	塙部遺跡 (第2次)	塙部一丁目367-1 他	19201 74	35°40'01"	138°33'46"	6月12日 ~ 7月10日	500 m ²	店舗建設
8	上上器遺跡 (第2次)	桜井町238	19201 164	35°39'21"	138°37'27"	6月22日 ~ 6月26日	20 m ²	個人住宅建設
9	大坪遺跡 (第8次)	横根町460	19201 149	35°39'06"	138°37'01"	7月11日 ~ 7月13日	2 m ²	事務所建設

番号	所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
10	緑が丘一丁目遺跡 (第6次)	緑が丘一丁目108-1	19201	43	35° 40' 28"	138° 33' 51"	7月20日 ~ 7月28日	17m ²	個人住宅建設
11	宮の脇A遺跡 (第2次)	宮の脇二丁目2744	19201	97	35° 39' 46"	138° 35' 43"	8月9日	1.6m ²	個人住宅建設
12	大手下遺跡・ 武田城下町遺跡	大手下三丁目3644-1	19201	244	35° 40' 48"	138° 34' 52"	8月10日 ~ 8月11日	20m ²	集合住宅建設
13	緑が丘二丁目遺跡 (第9次)	緑が丘二丁目921-1-3、923-2	19201	42	35° 40' 43"	138° 33' 58"	8月18日	8m ²	個人住宅建設
14	緑が丘二丁目遺跡 (第10次)	緑が丘二丁目897-5	19201	42	35° 40' 46"	138° 33' 57"	8月18日	4m ²	個人住宅建設
15	本郷遺跡	善光寺二丁目2359-1	19201	130	35° 39' 33"	138° 35' 47"	10月11日 ~ 10月16日	50m ²	集合住宅建設
16	朝氣遺跡 (第12次)	朝氣二丁目642-6	19201	121	35° 39' 58"	138° 35' 16"	10月19日	4m ²	個人住宅建設
17	塙部遺跡 (第3次)	塙部二丁目地内	19201	74	35° 40' 10"	138° 33' 36"	10月20日 ~ 11月1日	100m ²	県道工事
18	下丁遺跡	里吉三丁目823、 824、827-1	19201	195	35° 38' 41"	138° 35' 17"	平成8年(1996) 1月8日 ~ 1月17日	12m ²	宅地造成
19	家之前遺跡 (第1次)	黒古三丁目1001	19201	197	35° 38' 46"	138° 35' 22"	2月1日 ~ 2月5日	12m ²	宅地造成
20	金山遺跡	高室町724-2	19201	239	35° 36' 26"	138° 33' 41"	2月27日	2m ²	個人住宅建設
21	善光寺境内遺跡	善光寺二丁目2669-1	19201		35° 39' 44"	138° 35' 47"	3月6日 ~ 3月15日	90m ²	禮信徒会館建設
22	大坪遺跡 (第9次)	横根町275-1-3	19201	149	35° 39' 14"	138° 36' 54"	4月2日 ~ 4月3日	8m ²	個人住宅建設
23	榎田遺跡 (第1次)	下塙五丁目3006-1	19201	17	35° 40' 52"	138° 32' 33"	4月2日 ~ 4月9日	9m ²	個人住宅建設
24	桜林B遺跡	宮原町248-1	19201	230	35° 36' 58"	138° 33' 34"	4月15日 ~ 4月19日	8m ²	個人住宅建設

番号	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
25	家之前遺跡 (第2次)	里吉三丁目1003、 1010、1012-2	19201	197	35° 38' 47"	138° 35' 24"	5月13日 ~ 5月24日	33m ²	店舗建設
26	村内石川遺跡	横根町724-1 他	19201	138	35° 39' 19"	138° 36' 36"	5月27日 ~ 6月4日	26m ²	グラウンド造成
27	汗タリ遺跡	下今井町18-1 他	19201		35° 36' 39"	138° 34' 59"	6月13日 ~ 6月21日	75m ²	市民センター建設
28	銀杏之木遺跡	東光寺二丁目310-1	19201	122	35° 39' 41"	138° 35' 31"	7月1日 ~ 7月11日	15m ²	集合住宅建設
29	金塚西遺跡 (第2次)	千塚三丁目地内	19201	24	35° 40' 54"	138° 32' 42"	7月11日 ~ 8月26日	100m ²	公園建設
30	砂間遺跡	高室町国母工業団地 162	19201	235	35° 36' 40"	138° 33' 30"	7月15日 ~ 7月17日	6 m ²	工場増築
31	榎田遺跡 (第2次)	千塚五丁目2805-4・5、 2806-1・2	19201	17	35° 41' 00"	138° 32' 34"	7月25日 ~ 8月20日	45.7m ²	集合住宅建設
32	幸町A遺跡	幸町2785 他4筆	19201	190	35° 38' 37"	138° 34' 35"	8月29日 ~ 9月20日	48m ²	マンション建設
33	地藏北遺跡	東光寺三丁目1713 他	19201	94	35° 39' 48"	138° 35' 35"	9月6日 ~ 9月17日	12m ²	集合住宅建設
34	酒折遺跡	酒折三丁目1283-1 他	19201	135	35° 39' 30"	138° 36' 10"	9月18日 ~ 9月19日	8 m ²	運動場造成
35	塙部遺跡 (第4次)	塙部二・三丁目地内	19201	74	35° 40' 08"	138° 33' 35"	10月1日 ~ 10月17日	146m ²	道路改良工事
36	天神西遺跡 (第1次)	千塚四丁目3331 他	19201	16	35° 40' 56"	138° 32' 18"	10月2日 ~ 10月15日	12m ²	個人住宅建設
37	榎田遺跡 (第3次)	千塚五丁目2926-1	19201	17	35° 41' 02"	138° 32' 29"	10月21日 ~ 平成9年(1997) 1月29日	320m ²	宅地造成
38	家之前遺跡 (第3次)	黒吉三丁目790、 793-1	19201	197	35° 38' 46"	138° 35' 21"	11月6日 ~ 11月21日	46m ²	集合住宅建設
39	榎田遺跡 (第4次)	千塚五丁目2962-7	19201	17	35° 41' 01"	138° 32' 30"	11月13日 ~ 11月14日	4 m ²	個人住宅建設

番号	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
40	家之間遺跡 (第4次)	里吉三丁目982-1	19201	197	35° 38' 45"	138° 35' 23"	11月6日 ~ 11月21日	80m ²	集合住宅建設
41	御崎田遺跡	東光寺二丁目4-349 他	19201	116	35° 39' 40"	138° 35' 15"	平成9年(1997) 2月6日 ~ 2月12日	40m ²	宅地造成
42	天神西遺跡 (第2次)	千塚四丁目3230、 3231、3232他	19201	16	35° 40' 56"	138° 32' 20"	2月19日 ~ 2月25日	28m ²	集合住宅建設
43	永井遺跡	小松町425-1	19201	45	35° 41' 02"	138° 34' 09"	3月4日	4m ²	個人住宅建設
44	朝氣遺跡 (第13次)	朝氣二丁目670-2	19201	121	35° 38' 56"	138° 35' 16"	3月11日 ~ 3月12日	4m ²	個人住宅建設

甲府市文化財調査報告 31

甲府市内遺跡 III

— 平成 7・8 年度試掘調査報告書 —

平成18年 3月31日

発行 甲府市教育委員会

〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号

TEL 055 (223) 7324

FAX 055 (226) 4889

印刷 輝内田印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10番18号

